

# 近隣府県から見た奈良県観光の現状と課題

～「奈良県観光に関する県外居住者意識調査結果」の概要～

## はじめに

「2015年奈良県観光客動態調査報告書」によると、奈良県の観光入込客数2,280万人（実数）の内訳は県民が18.5%、残り78.1%が県外、3.4%が海外となっている。特に大阪府、兵庫県、京都府の3府県の合計は全体の48.1%、県外分の61.6%を占め、奈良県観光への影響力が大きい。

そこで奈良県の観光振興の方向性について示唆を試みるため、3府県の居住者の方に対して奈良県観光に関するネットアンケート調査を実施した。

## ポイント

### ■「奈良県観光に関する県外居住者意識調査結果」(当研究所)

- ①友人に勧める「素敵な観光地（近隣10府県）」の1位は「京都府」54.9%が最多〔奈良県3.1%〕。
- ②週末の休日に観光旅行したい地域の1位は「京都府」47.8%が最多〔奈良県4.8%〕。上位3位迄に奈良県を選ばない理由は、「訪れたいと思うような観光地等が少ないため」31.2%が最多、「観光地として新鮮味がないため」26.1%。
- ③観光地としてのマイナスイメージは「交通アクセスが悪い・不便」26.0%が最多。
- ④観光施設等の受入態勢等の評価は「(やや)遅れている」が35.4%、「(やや)進んでいる」が6.5%。
- ⑤個別評価は「神社仏閣以外の観光スポットや施設を知らない」が46.7%、「泊まってみたいと思う旅館・ホテルが少ない」が44.2%。
- ⑥奈良県観光を日帰りにしたい理由は「距離が近いので泊まる必要がないため」82.0%が最多。
- ⑦奈良県観光の機会を増やしたいと思う要因は、「ぶらぶら歩きながら楽しめるような観光スポットや街並みが多い」39.6%が最多、次いで「食事・グルメを楽しめる」37.8%が続く。

## 1 観光統計から見た奈良県観光の現状

### 1. 日本人観光入込客数(実数)

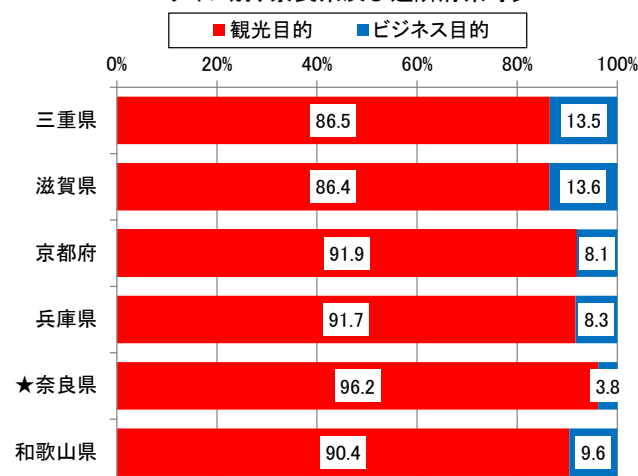
観光庁の「共通基準による観光入込客統計」によると、2015年の奈良県の日本人観光入込客数（実数）は21,657千人回<sup>(\*)</sup>で39都道府県中第23位、奈良県人口の15.9倍の規模となっており、39都道府県（17.6倍）の水準を下回る。但し、観光入込客数が突出している東京都を除いた38道府県の同人口比（14.6倍）と比較すると、奈良県はやや多いと言える。

\*人回：観光入込客の1回の来訪を1人回と数える。

タイプ別観光入込客数(実数)の構成比をみると、奈良県観光は観光目的（96.2%）に依存しており、ビジネス目的の割合は3.8%に留まる。

なお、奈良県を訪れる訪日外国人の観光入込客（1,148千人回、うち日帰り911千人回）も一定数存在するが、京都府・兵庫県等14道府県で実態が把握されておらず適切な比較ができないため、以下、全体の9割を占める「日本人・観光目的」に絞って現状を詳しく見ていく。

日本人観光入込客数(実数)の構成比〔2015年：タイプ別、奈良県及び近隣府県等〕



資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

\*大阪府は未導入(以下同様)。

奈良県の日本人・観光目的の観光入込客数（実数）は20,834千人回で、39都道府県中20位。和歌山県の1.9倍あり、滋賀県とは同規模であるが、兵庫県や京都府の3割程度の水準に留まる。

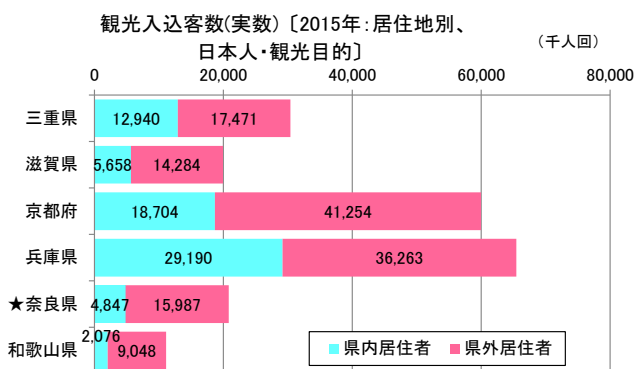
居住地別の割合は、38道府県では県外居住者が全体の52.5%を占めるが、奈良県は76.7%（15,987千人回）と約24ポイント高い〔3位〕。同構成比は京都府が68.8%、兵庫県が55.4%と低く、奈良県観光の県外居住者への依存度の高さがうかがえる〔県内居住者の県内観光が少ない〕。

奈良県の観光形態別（宿泊・日帰り）の県外居住者・観光目的は、宿泊が1,351千人回で30位、日帰りが14,636千人回で14位。県外居住者に占める日帰りの割合は、奈良県は91.5%で4位。39都道府県（84.8%）のうち同割合が90%以上あるのは奈良県を含め7都県（東京都、埼玉県、愛

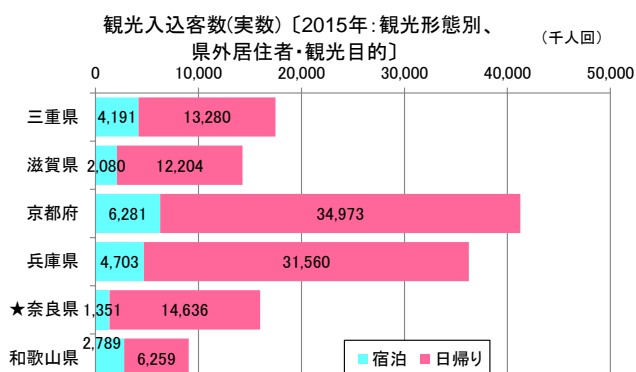
知県、茨城県、岐阜県、佐賀県）で、大都市近隣の府県において同割合が高くなっている。

奈良県の日帰り（県内+県外居住者）・観光入込客数は19,180千人回、全体の92.1%で日帰りが9割以上を占める〔38道府県：86.0%〕。

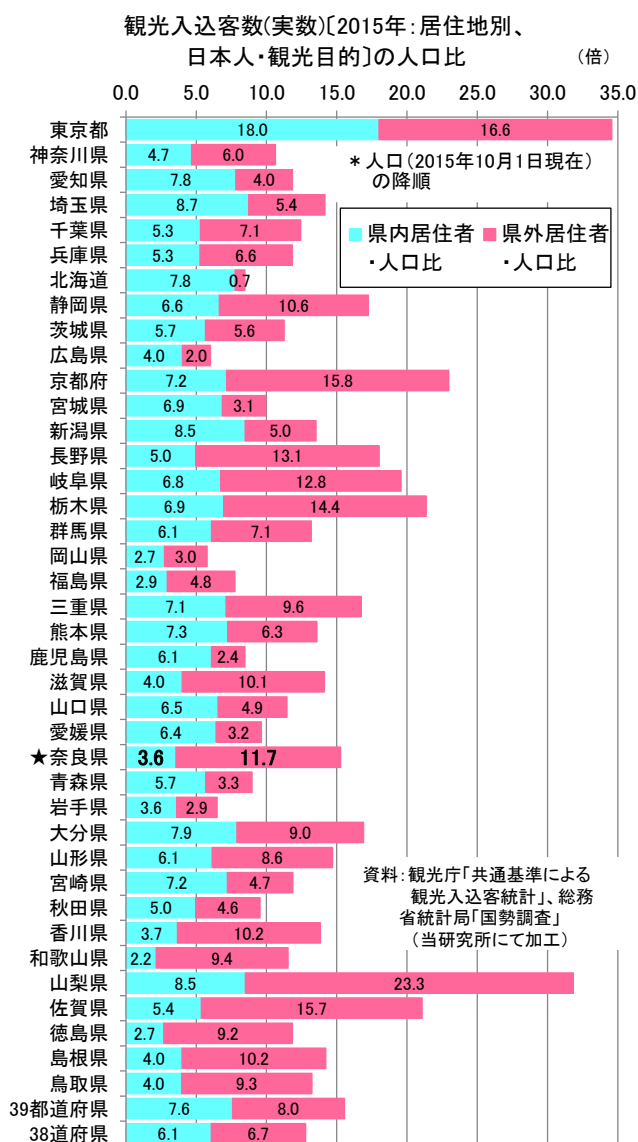
また、人口比でみると奈良県は県内居住者が3.6倍（38道府県6.1倍）、県外居住者が11.7倍（同6.7倍）となっており、他府県と比較して、県外から大勢の観光入込客が奈良県を訪問していることがわかる。また、奈良県の日本人・観光目



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」、総務省統計局「国勢調査」(当研究所にて加工)

的の観光消費額は122,177百万円で、うち県外居住者が104,086百万円、全体の85.2%を占めており〔39都道府県：67.4%〕、県外居住者の影響力が相当大きいと言える。

## 2. 観光形態別・居住地別観光消費額単価

経済波及効果<sup>(\*)</sup>の算出に用いる観光消費額は「観光入込客数(実数)×観光消費額単価」に分解できる。ここでは観光消費額単価を概観する。

\*特定の産業に需要が発生した時、その産業の生産を誘発するとともに、原材料等の取引を通じて関連する他産業の生産も誘発していく経済活動の波及。

### (1) 宿泊観光消費額単価(居住地別)

2015年の奈良県の観光入込客(日本人・観光目的)の宿泊観光消費額単価をみると、県内居住者は19,484円(20位)で平均22,582円より3,098円少ない(-13.7%)。

県外居住者は28,887円(14位)で平均29,392円より505円少ない(-1.7%)。近隣府県と比較すると、奈良県は滋賀県21,144円、和歌山県17,175円を上回っているが、兵庫県42,116円、京都府32,441円を下回っている。

### (2) 日帰り観光消費額単価(居住地別)

2015年の奈良県の観光入込客(日本人・観光目的)の日帰り観光消費額単価をみると、県内居住者は2,667円(36位)で平均4,588円より1,921円少ない(-41.9%)。

県外居住者は4,446円(37位)で平均7,948円より3,502円少ない(-44.1%)。近隣府県の同単価は京都府8,232円、三重県8,196円、兵庫県8,003円、滋賀県6,508円となっており、奈良県は近隣4府県の水準を大幅に下回っている。この観光消費額単価の低さから、奈良県は県外居住者・日帰りの観光入込客数の規模が14位でありながら、観光消費額は19位に留まっている。

県外居住者の日帰り観光消費額単価を比較する

と、滋賀県6,508円(26位)は奈良県の約1.5倍あり、県外からの観光入込客が増大した際の経済波及効果は奈良県以上に大きくなる。逆に、奈良県は観光入込客数が増大しても、単価の低さから相対的に経済波及効果への影響が小さくなる。

観光入込客数の9割以上が日帰りである奈良県は、日帰りから宿泊へのシフトを進める以前の問題として、日帰りの観光消費額単価の上昇に向けた取組みが重要である。

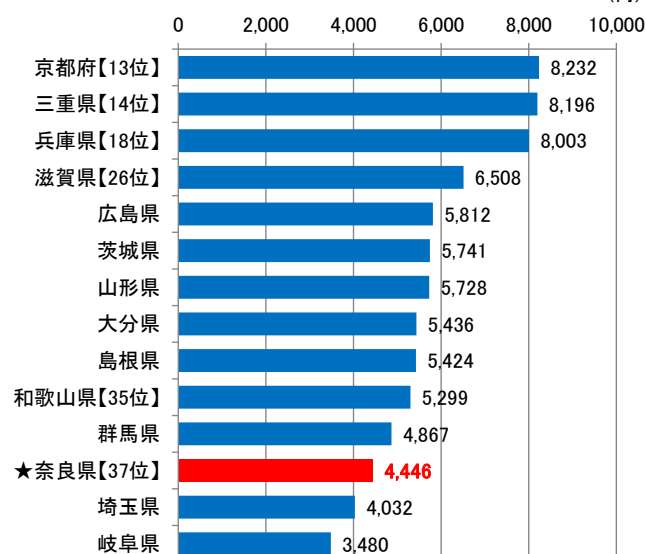
### 奈良県の観光消費額単価等〔2015年：居住地別〕

〔日本人・観光目的〕	県内居住者		県外居住者	
	宿泊	日帰り	宿泊	日帰り
観光消費額単価(円/人回)	19,484	2,667	28,887	4,446
*順位(39都道府県中)	20	36	14	37
*39都道府県の平均単価(円)	22,582	4,588	29,392	7,948
*奈良県と平均との乖離(円)	-3,098	-1,921	-505	-3,502
*同乖離率(%)	-13.7	-41.9	-1.7	-44.1
観光入込客数(千人回)	303	4,544	1,351	14,636
*順位(39都道府県中)	36	31	30	14
観光消費額(百万円)	5,912	12,119	39,013	65,073
*順位(39都道府県中)	35	34	29	19

資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

\*39都道府県平均は、観光消費額の合計を39都道府県の観光入込客数の合計で除して算出している。

日帰り観光消費額単価〔2015年：県外居住者・観光目的、下位10県及び近隣府県〕〔単価の降順〕 (円)



資料：観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

### 3. 観光入込客数・観光消費額の近隣4県との比較

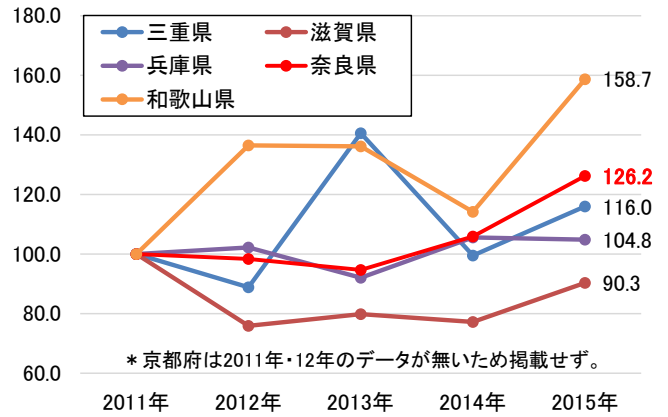
近隣4県と比較して観光入込客数(実数)〔県外居住者・観光目的〕の推移〔2011年=100〕をみると、奈良県は2012年・13年は減少したが、2015年は126.2に増加。和歌山県158.7より増加幅は小さいが、三重県・兵庫県を上回っている。

同様に観光消費額の推移をみると、奈良県は2012年・13年・14年は減少したが、2015年は116.3に増加。和歌山県101.9より増加幅は大きい、兵庫県195.6や三重県148.2と比較すると、大きく見劣りしている。

一方、日帰り観光消費額単価の推移をみると、奈良県は2012年以降4年連続で2011年の水準を下回り、2015年は85.4に減少。兵庫県173.1や三重県132.6と比較すると、大きく見劣りしている。奈良県と同様に若干減少している県もあるが、前頁でみたように2015年に和歌山県は奈良県の1.2倍、滋賀県は同1.5倍の水準となっている。

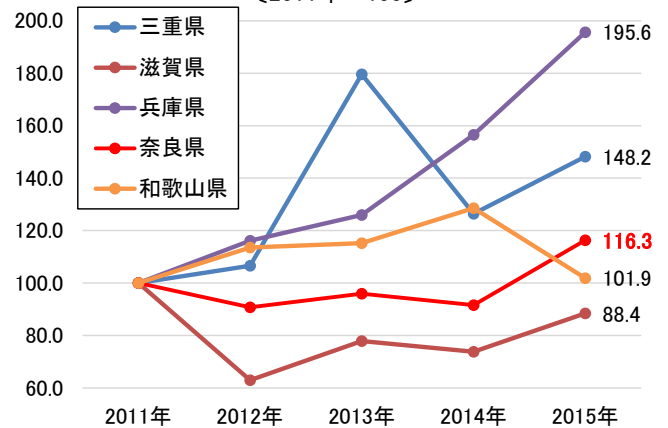
県外居住者・観光目的の日帰り観光入込客数(実数)をみると、滋賀県は奈良県の0.83倍と少ないが、観光消費額は1.22倍ある。また、三重県は同0.91倍と少ないが、観光消費額は1.67倍と多い。奈良県は、日帰り観光消費額単価の低迷により、観光客誘致が観光消費額の拡大にあまり結びついていない状況にあると言える。

観光入込客数(実数)〔県外居住者・観光目的〕の推移〔2011年=100〕



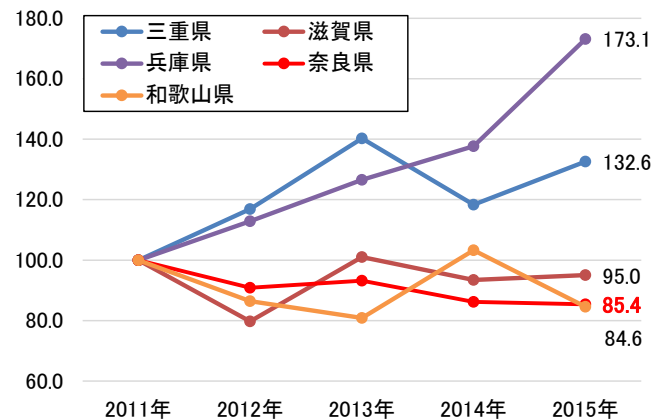
\* 京都府は2011年・12年のデータが無いため掲載せず。  
資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

観光消費額〔県外居住者・観光目的〕の推移〔2011年=100〕



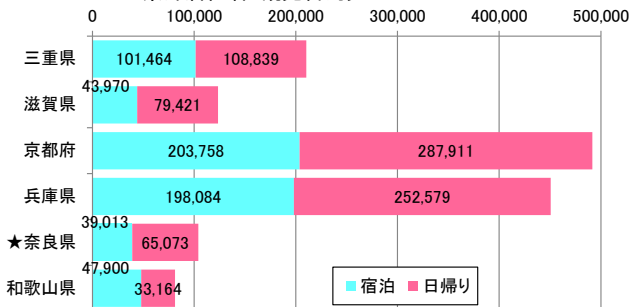
資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

日帰り観光消費額単価〔県外居住者・観光目的〕の推移〔2011年=100〕



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

観光消費額〔2015年:観光形態別、県外居住者・観光目的〕 (百万円)



資料:観光庁「共通基準による観光入込客統計」(当研究所にて加工)

## 2

## 近隣府県観光地の選好度等

\*以下、「奈良県観光に関する県外居住者意識調査結果」（当研究所）より。「n」（回答者総数）は特に断りのない限り「n=1,200」であり、異なる場合のみ別途記載。近隣3府県の居住者を対象に人口構成比（大阪府53%、兵庫県32%、京都府15%）に応じて回収。四捨五入の関係で、比率合計が100%にならない場合がある。

### 1. 観光地として好きな3地域（近隣10府県<sup>(\*)</sup>対象）等

観光地として好きな3地域（居住地を含む）を聞いた結果、好きな地域1位は「京都府」が48.9%と最多、「大阪府」12.1%、「兵庫県」11.4%と続く〔奈良県3.2%〕。性別・年代別でも、全ての年代で「京都府」が最も多い。

\*近隣10府県：京都府・大阪府・兵庫県、奈良県、和歌山県、滋賀県、三重県、福井県、岡山県、鳥取県。

同2位は「兵庫県」が18.9%と最も多く、「京都府」17.1%、「大阪府」15.7%、「奈良県」13.4%が続く。なお、男女とも60-74歳は「奈良県」が各々24.5%、18.3%と最も多い。

上記結果をよりわかりやすくするために、順位1~3位の各構成比に3~1点の配点をそれぞれ乗じ（例：1位の構成比×3）、それらの積上げグラ

フを掲載している。このグラフをみると、やはり京都府の強さが際立っていることがわかる。

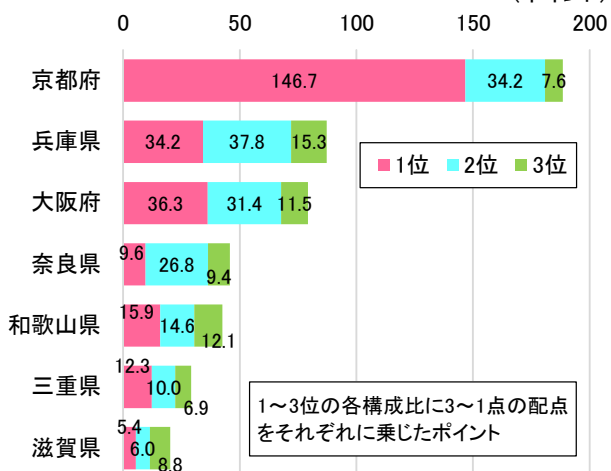
居住地別では3府県とも「京都府」が1位。大阪府民は43.8%（「大阪府」18.5%）、兵庫県民は50.7%（「兵庫県」22.5%）、京都府民は63.0%。

観光目的で訪問回数の多い3地域（同）を聞いた結果、訪問回数の多い地域1位は「京都府」が41.6%と最多、「大阪府」21.3%、「兵庫県」17.9%。同2位は「大阪府」が22.9%と最も多く、「兵庫県」19.7%、「京都府」15.4%、「奈良県」9.7%が続く。

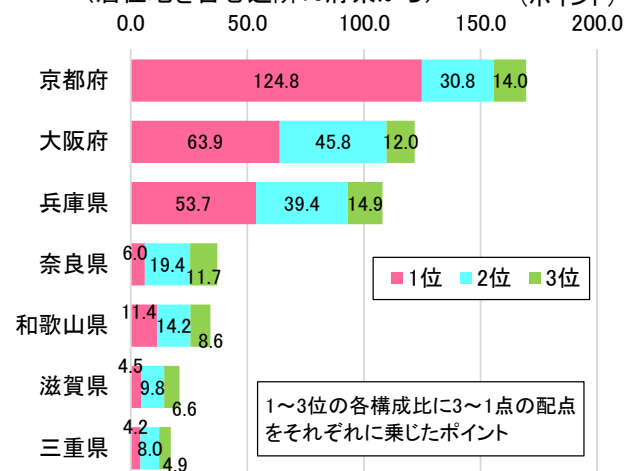
前述と同様に加工した積上げグラフをみると、京都府の強さが目立つが、3府県の人口構成比の影響もあり、大阪府民や兵庫県民による居住地県への観光の多さから、3府県の差は縮まっている。

居住地別の1位をみると、大阪府民は「京都府」が38.2%と最も多く、「大阪府」32.5%、「兵庫県」6.9%が続く。兵庫県民は「兵庫県」が42.5%と最も多く、「京都府」32.7%、「大阪府」10.2%が続く。京都府民は「京都府」が72.3%と最も多く、「大阪府」6.0%が続く。

観光地として好きな上位3地域  
（居住地を含む近隣10府県から）（ポイント）



観光目的で訪問回数の多い上位3地域  
（居住地を含む近隣10府県から）（ポイント）



資料：「奈良県観光に関する県外居住者意識調査結果」（2017年9月実施：一般財団法人南都経済研究所）、以下同様

## 2. 地域別にみた最も多い観光形態(日帰り・宿泊)

近隣7府県を観光する際に最も多い観光形態を聞いた結果、「日帰り・昼食あり」は京都府53.3%、奈良県47.3%、大阪府45.4%、兵庫県44.0%、滋賀県34.0%で最多、三重県・和歌山県では「1泊2日」が各々36.8%、33.1%で最多。

「日帰り・昼夕食あり」は大阪府21.7%、兵庫県19.8%、京都府16.5%で多く、奈良県10.7%、滋賀県11.7%などはやや少ない。

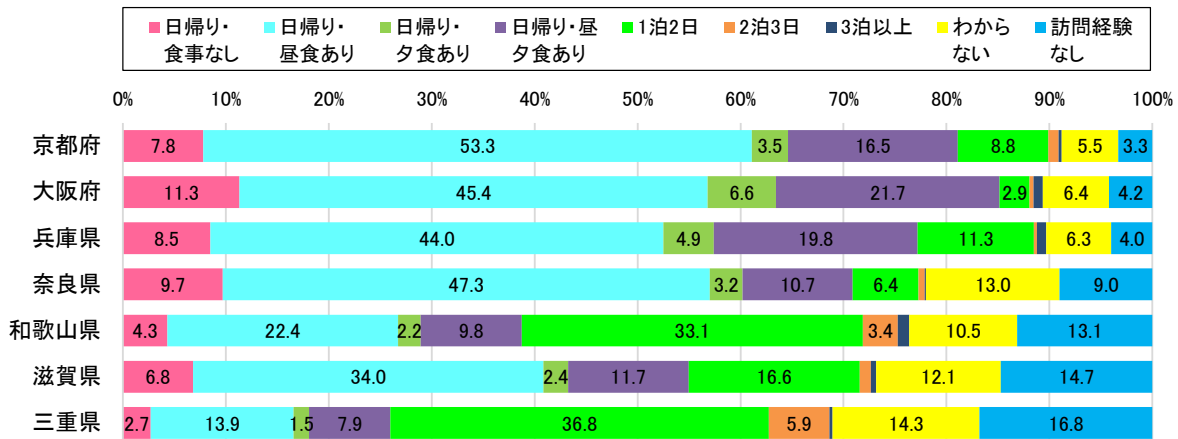
1泊以上の「宿泊」は三重県43.0%が最多、和歌山県37.6%、滋賀県18.2%、兵庫県12.5%、京都府10.1%、奈良県7.1%、大阪府4.2%と続く。なお、奈良県への「訪問経験なし」は9.0%。

## 3. 地域別にみた観光で訪れたいと思う頻度

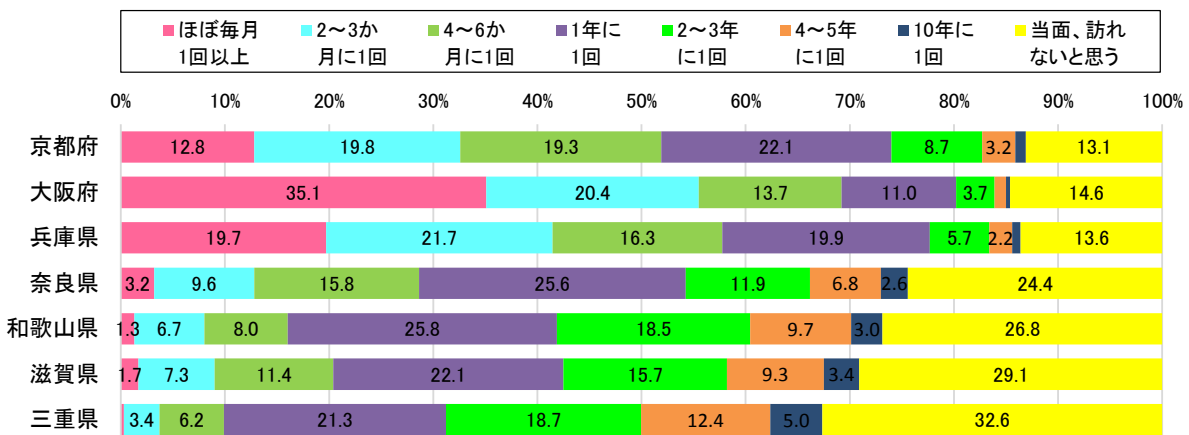
近隣7府県へ観光で訪れたいと思う頻度を聞いた結果、「ほぼ毎月1回以上」は大阪府35.1%が最多、兵庫県19.7%、京都府12.8%が続く。「6か月に1回以上(累計)」は大阪府69.2%、兵庫県57.7%、京都府51.9%が多く、奈良県28.6%、滋賀県20.4%、和歌山県16.0%。

奈良県は「1年に1回」25.6%が最多、「当面、訪れないと思う」24.4%〔兵庫県民32.9%〕、「4~6か月に1回」15.8%が続く。「1年に1回以上(累計)」は54.2%で、女性60-74歳が68.5%と多く、同20-29歳は27.5%。居住地別では大阪府52.4%が多く、京都府30.9%、兵庫県29.9%。

各地域を観光する際に最も多い観光形態(日帰り・宿泊)



今後、各地域を観光で訪れたいと思う頻度(現実的に可能な回数)



#### 4. 友人に勧める「素敵な観光地(近隣10府県対象)」

親しい友人から「どこか素敵な観光地を教えてください」と頼まれた場合、勧める3地域を聞いた結果、素敵な観光地1位は「京都府」が54.9%と最多、「兵庫県」9.7%、「大阪府」9.0%が続く〔奈良県3.1%〕。性別・年代別でも、全ての年代で「京都府」が最も多い。なお、男性60-74歳は「奈良県」6.3%が3番目に多い。

同2位は「兵庫県」が21.1%と最も多く、「大阪府」18.0%、「京都府」14.2%。なお、女性60-74歳は「奈良県」23.4%が最も多く、男性60-74歳は「兵庫県」22.6%に次いで「奈良県」21.5%が2番目に多い。

上記結果をよりわかりやすくするために、順位1~3位の各構成比に3~1点の配点をそれぞれ乗じ(例:1位の構成比×3)、それらの積上げグラフを掲載している。このグラフをみると、やはり京都府の強さが際立っていることがわかる。

居住地別の1位は、3府県とも「京都府」が最も多く、大阪府は50.2%（「大阪府」12.9%、「兵庫県」5.8%）、兵庫県は54.5%（「兵庫県」18.6%、「大阪府」5.9%）、京都府は71.8%。

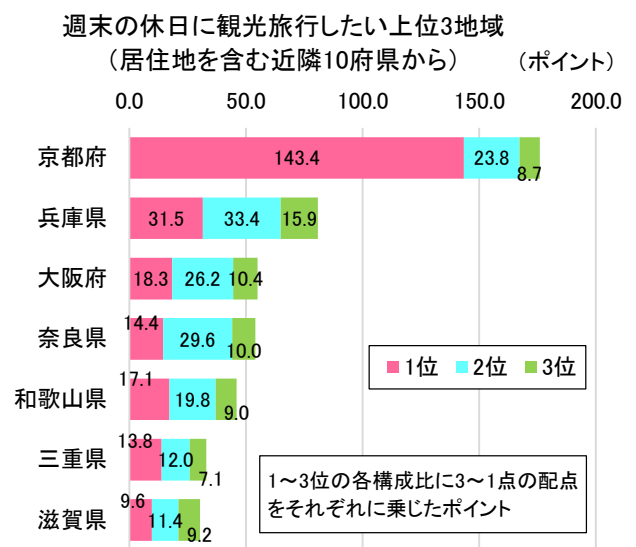
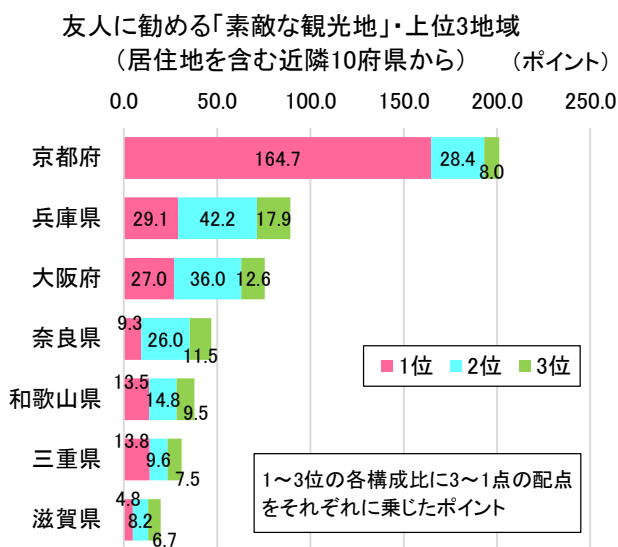
#### 5. 週末の休日に観光旅行したい3地域(近隣10府県対象)

春や秋など行楽シーズンの週末の休日に、日帰り又は宿泊で近隣府県へ観光旅行をするとした場合、行きたい3地域はどこか聞いた結果、行きたい地域1位は「京都府」が47.8%と最多、「兵庫県」10.5%、「ひとつもない/行きたい地域はない」8.6%が続く〔奈良県4.8%〕。性別・年代別でも、全ての年代で「京都府」が最も多い。

同2位は「兵庫県」が16.7%と最も多く、「奈良県」14.8%、「大阪府」13.1%。なお、女性60-74歳は「奈良県」が22.2%と最も多く、男性60-74歳も「奈良県」が26.4%と最も多い。

前述と同様に加工した積上げグラフをみると、京都府の強さが目立っている。

居住地別の1位をみると、大阪府は「京都府」が46.1%と最も多く、「大阪府」8.5%、「兵庫県」7.6%が続く。兵庫県は「京都府」が48.0%と最も多く、「兵庫県」16.0%、「ひとつもない/行きたい地域はない」11.0%が続く。京都府は「京都府」が53.3%と最も多く、「兵庫県」8.5%、「和歌山県」7.3%が続く。なお、2位は大阪府で「奈良県」が16.2%と最も多い。



週末の観光旅行先として上位3位までに奈良県以外を選ぶ人の割合は、全体の70.4% (n=845)。

性別・年代別でみると、女性20歳代が83.0%と最も多く、次いで男性20歳代79.1%、女性30歳代78.3%、男性40歳代78.1%など、全般的に若い世代ほど奈良県以外を選ぶ割合が多い。一方、男女とも60-74歳は奈良県以外を選ぶ割合が比較的少なく、各々59.9%、57.2%となっている。別の見方をすると、男女とも60-74歳の約4割の人は、3位までに奈良県を選択している。

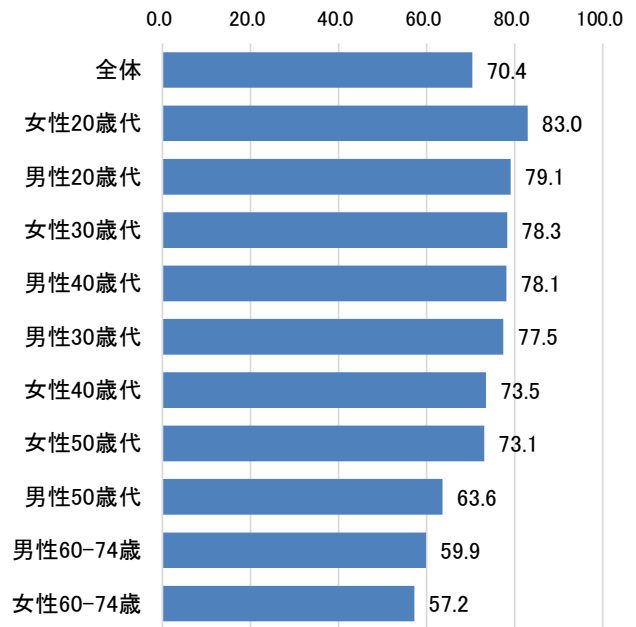
#### 6. 週末の観光旅行先として奈良県を選ばない理由(複数回答)

週末の観光旅行先として上位3位までに奈良県以外を選択した人 (n=845) に、3位までに奈良県を選ばない理由 (3つ以内) を聞いた結果、「訪れたいと思うような観光地・観光施設が少ないため」が31.2%と最も多く、次いで「過去に訪れたことがあるため」29.4%、「観光地として新鮮味がないため」26.1%、「とくに理由はない(なんとなく)」18.0%、「奈良県へ行くのに時間がかかるため」16.0%、「おいしい料理を味わえる店が少ないため」15.2%、「観光地間の移動が不便なため」13.6%、「参加したいと思う行祭事や魅力的なイベントが少ないため」12.4%が続く。

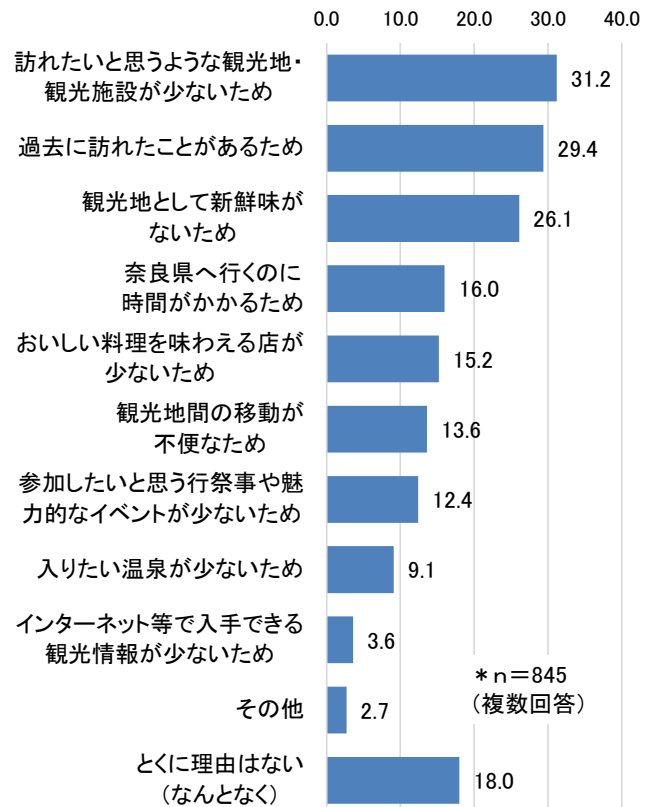
女性60-74歳 (n=107) では「過去に訪れたことがあるため」が34.1%と最も多く、次いで「観光地として新鮮味がないため」27.6%、「おいしい料理を味わえる店が少ないため」24.5%が続く。

男性40-49歳 (n=100) では「訪れたいと思うような観光地・観光施設が少ないため」が31.1%と最も多く、男性60-74歳 (n=100) では、「過去に訪れたことがあるため」が43.9%と最も多い。

週末の観光旅行先として上位3位までに奈良県以外を選ぶ人の割合【性別・年代別、降順】 (%)



週末の観光旅行先として上位3位までに奈良県を選ばない理由 (%)





### 3 奈良県観光の体験状況

#### 1. 観光目的での奈良県への訪問回数等

過去10年間に観光目的で奈良県を訪れた回数を聞いた結果、「4～5回」が15.1%と最も多く、次いで「1回」14.4%、「訪れたことがない（0回）」14.2%、「2回」12.9%が続く。「11回以上」は男性40歳代18.0%が最も多い。

なお、「わからない・覚えていない」は、男性50歳代18.8%、男性20歳代17.2%などで多い。

居住地別にみると、大阪府では「4～5回」16.5%が最も多く、次いで「11回以上」16.4%が多い。兵庫県では「訪れたことがない（0回）」20.2%が最も多く、次いで「1回」19.1%が多い。京都府では「1回」17.7%が最も多く、次いで「訪れたことがない」15.8%が多い。

「4～5回」「6～10回」「11回以上」の合計（全体33.2%）は、大阪府42.3%が最も多く、京都府30.4%、兵庫県19.8%となっている。

過去10年間に奈良県内で訪問・利用したことがある観光地・観光施設（複数回答、n=880）を聞いた結果、「神社・仏閣や史跡・城、庭園等」が84.6%と最も多く、次いで「歴史的まち並み・旧街道」37.6%、「博物館、美術館ギャラリー、記念・資料館等」22.2%、「自然の中のハイキング・サイクリング、景観地」21.5%、「歴史的建造物、デザインの優れた建造物等」16.8%などが続く。

最近に観光目的で奈良県を訪れた時期を聞いた結果、「1年以内」が31.3%と最も多く、次いで「わからない・覚えていない」12.1%、「5年超10年以内」10.5%、「1年超2年以内」10.4%が続く。「1年以内」は男性60-74歳40.9%、女性60-74歳37.6%で多く、女性20歳代22.0%が最も少

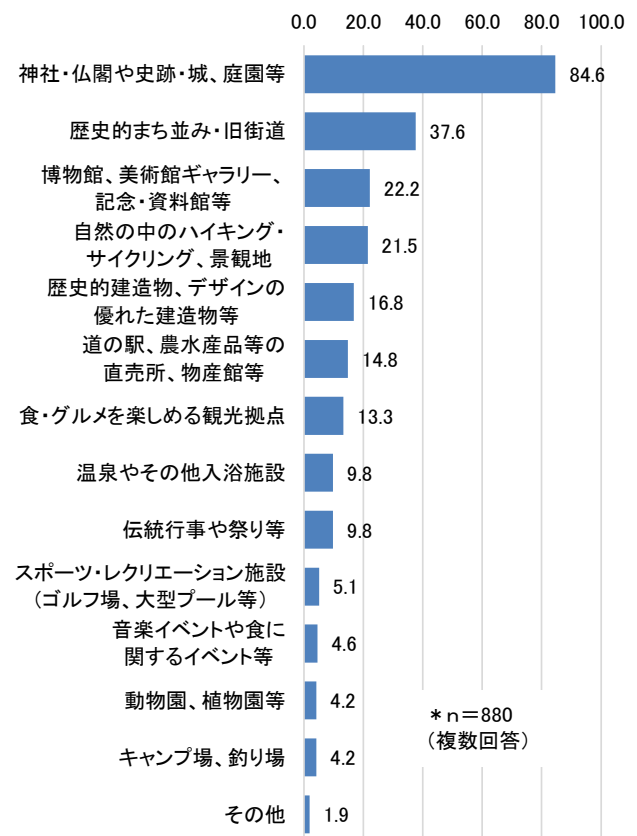
ない。また、女性30歳代・同50歳代および男性20歳代・同50歳代で25.0%前後と少ない。

なお、「訪れたことがない」は男性20歳代18.2%、女性20歳代14.2%、同30歳代12.0%が多い。「わからない・覚えていない」は女性20歳代で18.1%と最も多い（図表非掲載）。

過去10年間の観光目的での奈良県訪問回数【居住地別】



過去10年間に奈良県内で訪問・利用したことがある観光地・観光施設



## 2. 過去に観光目的で訪れたエリア等

過去に観光目的で訪れたことのある奈良県のエリア（複数回答）は、「県北部」が63.5%と最も多く、次いで「県東部」30.4%、「県西部」27.1%、「県南部」26.6%が続く（以下、「県」省略）。「北部」は3人に2人が訪れているが、残り3エリアは3～4人に1人と少ない。なお、「わからない・覚えていない」は14.7%、「いずれへも訪れたことはない」は5.7%（図表非掲載）。

エリア別にみると、「北部」は女性60-74歳で72.8%と多いが、男女とも20歳代で5割を切る。「西部」は女性60-74歳で38.2%と多く、同20歳代で9.8%と少ない。「東部」は男女とも60-74歳で43.0%と多く、女性20歳代で11.8%と少ない。

「南部」は男性50歳代で40.9%と多く、男女とも20歳代で各々12.1%、15.8%と少ない。

居住地別にみると、大阪府は「北部」63.3%が最多、「東部」34.5%、「南部」33.4%、「西部」31.8%が続く。相対的にアクセスが良いため、「南部」への訪問経験率が他地域より10ポイント以上高い。兵庫県は「北部」60.6%が最多、「東部」25.5%、「西部」22.8%、「南部」18.8%が続く。京都府は「北部」70.0%が最多、「東部」26.2%、「西部」「南部」各19.9%。

奈良県のエリア区分：市町村	
<b>県北部</b>	奈良市（奈良公園・東大寺・平城宮跡等）、生駒市（生駒山・宝山寺・生駒山上遊園地）、山添村
<b>県西部</b>	大和郡山市、斑鳩町、御所市、葛城市、大和高田市、香芝市、平群町、三郷町、安堵町、川西町、三宅町、田原本町、上牧町、王寺町、広陵町、河合町
<b>県東部</b>	明日香村（高松塚古墳・石舞台古墳）、橿原市（今井町・橿原神宮）、桜井市（大神神社・安倍文殊院・山の辺の道）、天理市（山の辺の道）、宇陀市（室生寺）、曾爾村、御杖村、高取町（壺阪寺）
<b>県南部</b>	吉野町（金峯山寺・吉野山）、天川村（洞川温泉・みたらい溪谷等）、十津川村（谷瀬の吊り橋・瀨峡）、上北山村（大台ヶ原山）、東吉野村（高見山）、五條市、大淀町、下市町、黒滝村、野迫川村、下北山村、川上村、東吉野村

今後、是非、観光に訪れたいと思うエリア（複数回答）を聞いた結果、「北部」が42.1%と最も多く、次いで「南部」38.0%、「東部」26.5%、「西部」17.6%が続く。なお、「いずれへも訪れたいとは思わない」は21.5%。

エリア別にみると、「北部」は女性20歳代で49.7%、同50歳代で45.9%と多い。「西部」は男性30歳代で23.7%、同20歳代で23.3%と多く、同60-74歳で11.2%と少ない。「東部」は女性60-74歳で39.6%と多く、同20歳代で11.1%と少ない。「南部」は男性50歳代で49.5%と多く、女性20歳代で17.4%と少ない。「いずれへも訪れたいとは思わない」は男女とも20歳代で各々32.0%、39.0%と多い。

居住地別にみると、大阪府は「南部」44.0%が最多、次いで「北部」43.0%、「東部」26.3%、「西部」16.7%が続く。兵庫県は「北部」41.9%が最多、京都府も「北部」39.4%が最多。「いずれへも訪れたいとは思わない」は、大阪府18.1%、兵庫県25.9%、京都府23.9%。

### 今後、是非、観光に訪れたいと思うエリア（複数回答）

*全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	県北部	県西部	県東部	県南部	いずれへも訪れたいとは思わない
全体	42.1	17.6	26.5	38.0	21.5
男性20歳代	34.8	23.3	20.4	28.1	32.0
男性30歳代	45.3	23.7	26.9	37.6	21.1
男性40歳代	37.4	18.8	20.8	39.5	26.4
男性50歳代	36.9	13.1	22.6	49.5	20.5
男性60-74歳	39.7	11.2	27.5	41.8	19.0
女性20歳代	49.7	14.5	11.1	17.4	39.0
女性30歳代	44.0	17.4	23.2	37.0	24.5
女性40歳代	42.2	14.5	28.3	33.9	18.5
女性50歳代	45.9	21.7	30.5	43.4	18.1
女性60-74歳	44.8	20.7	39.6	42.7	10.4

### 3. 奈良県内での観光目的の宿泊経験の有無等

奈良県内での観光目的の宿泊経験（修学旅行や帰省・知人訪問等を除く）の有無を聞いた結果、「宿泊経験がない（0回）」が74.1%と最も多く、「1回ある」15.2%、「2回ある」3.9%、「3回以上ある」6.8%。「0回」は男性40歳代で85.2%と多く、女性30歳代82.8%、同20歳代82.4%でも多い。「1回ある」は女性60-74歳で22.0%と多く、同50歳代20.5%、男性60-74歳17.9%、同20歳代17.8%でも多い。「3回以上ある」は男性50歳代で15.2%と多く、女性60-74歳9.2%でも多い。

居住地別にみると、「0回」は大阪府76.4%、京都府75.4%が多い〔兵庫県70.1%〕。

「宿泊経験がない」と回答した人（n=890）に奈良県内で宿泊経験がない理由（複数回答：3つ以内）を聞いた結果、「距離が近いので、わざわざ泊まる必要がないため（日帰りで十分）」が71.4%と最も多く、次いで「泊まりたいと思うホテル等が少ない・無いため」13.1%、「奈良県内のホテル等のことをよく知らないため（情報が少ない）」11.9%、「宿泊してまで参加したいと思うようなイベントがないため」10.9%、「宿泊してまで食べたいと思う料理が少ない・無いため」10.0%が続く。なお、「とくに理由はない（なんとなく）」は15.4%。

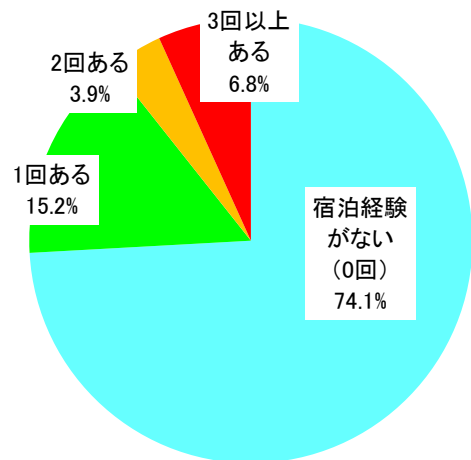
「距離が近いので、わざわざ泊まる必要がないため」は、女性50歳代で86.2%、同60-74歳で84.2%と多い。「泊まりたいと思うホテル等が少ないため」は、男性60-74歳で23.1%、「とくに理由はない」は男性20歳代で32.6%と多い。

居住地別にみると、「距離が近いので、わざわざ泊まる必要がないため」は大阪府が80.4%と多いが、兵庫県は54.8%とやや少ない。「泊まりたいと思うホテル等が少ないため」は兵庫県が

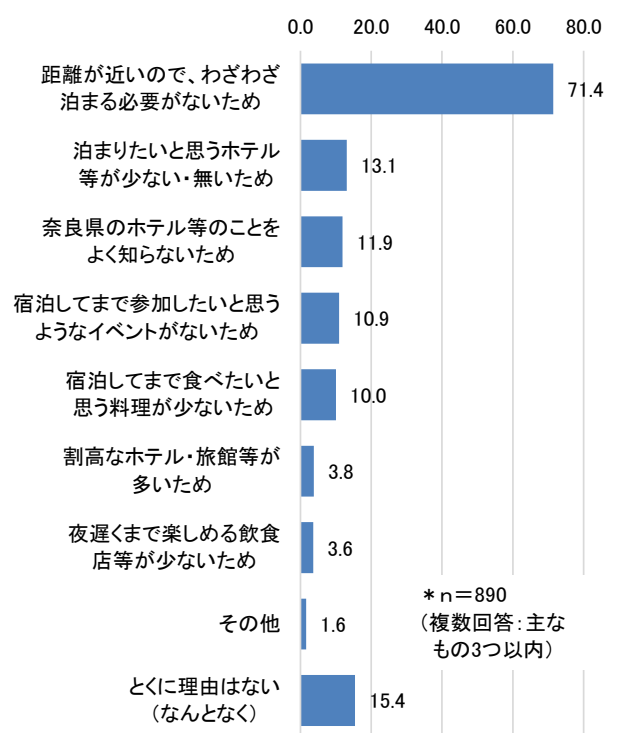
17.0%と多い。

「宿泊経験がある」と回答した人（n=310）に最近の宿泊時期を聞いた結果、「21年以上前」17.9%が最多、「10年超20年以内」14.1%、「5年超10年以内」14.0%と続く（図表非掲載）。

奈良県内での観光目的の宿泊経験（修学旅行や帰省・知人訪問等を除く）の有無



奈良県内で宿泊経験がない理由



#### 4. 奈良県のイベント・行事等の認知度や参加経験等

\*本調査は、質問の選択肢にイベント・行事の名称とともに開催地も併記して行った。

奈良県のイベント・行事等についての認知度や参加・見学等の経験について聞いた結果、「(1回+複数回)参加・見学」は「正倉院展」24.7%が最多、「若草山焼き」14.0%、「鹿の角きり」9.4%、「お水取り〔修二会〕」9.3%、「平城京天平祭」7.9%、「なら燈花会」7.7%が続く。なお、「複数回、参加・見学」は「正倉院展」9.4%が最多、「若草山焼き」6.2%、「なら燈花会」「なら瑠璃絵」各3.1%、「お水取り」3.0%。

一方、「内容は知っているが、参加・見学したことはない」は、「鹿の角きり」56.4%が最多、「若草山焼き」50.3%、「お水取り〔修二会〕」44.2%、「全国金魚すくい選手権大会」41.8%、「正倉院展」33.9%などが続く。

「名前は知っているが、内容は知らない」は、「平城京天平祭」24.5%が最多、「正倉院展」18.8%、「全国金魚すくい選手権大会」18.6%、「春日若宮おん祭り」18.3%、「飛鳥光の回廊」17.9%、「奈良マラソン」15.0%などが続く。

「名前を聞いたことがない」は、「ムジークフェストなら」92.5%が最多、「馬見フラワーフェスタ」89.5%、「珠光茶会」86.3%、「シェフェスタ in 奈良・馬見」85.9%、「バサラ祭り」85.7%、「奈良県大芸術祭」84.4%、「ヒルクライム大台ヶ原」82.9%、「奈良大立山まつり」77.4%、「なら瑠璃絵」75.4%などが続く。

「(1回+複数回)参加・見学」の多い性別・年代をみると、「正倉院展」は女性60-74歳で51.1%、同50歳代で27.2%、男性60-74歳で36.8%、同50歳代で23.1%と多い。「若草山焼き」は男性60-74歳で22.5%、同50歳代で28.5%、

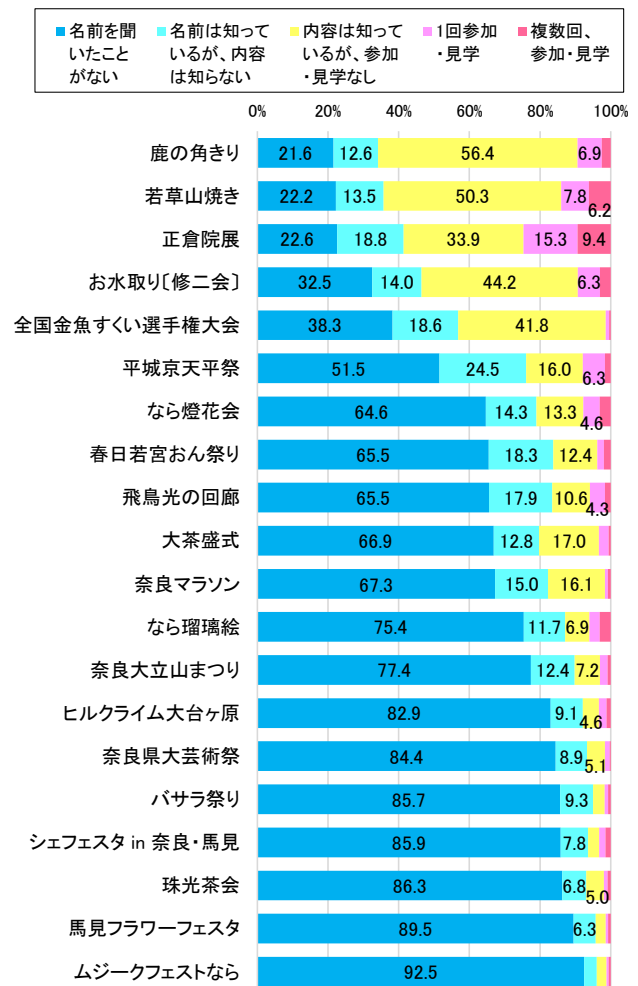
女性60-74歳で22.6%と多い。「なら燈花会」は女性30歳代で13.8%、同40歳代で12.4%と多い。

「バサラ祭り」は男性20歳代で6.3%とやや多いが、その他の性別・年代は総じて少ない。

「正倉院展」について「(1回だけ+複数回)参加・見学」を居住地別にみると、大阪府27.7%、兵庫県20.6%、京都府22.7%と3府県とも20%を超えており、集客力の高さがうかがえる。

「名前を聞いたことがない」の多い性別・年代をみると、「平城京天平祭」は女性20歳代が70.2%と多く、「奈良県大芸術祭」は女性30歳代が93.4%と多い。

奈良県のイベント・行事等の認知度や参加経験等  
【「名前を聞いたことがない」の昇順】



## 4 奈良県観光のイメージ・関心等

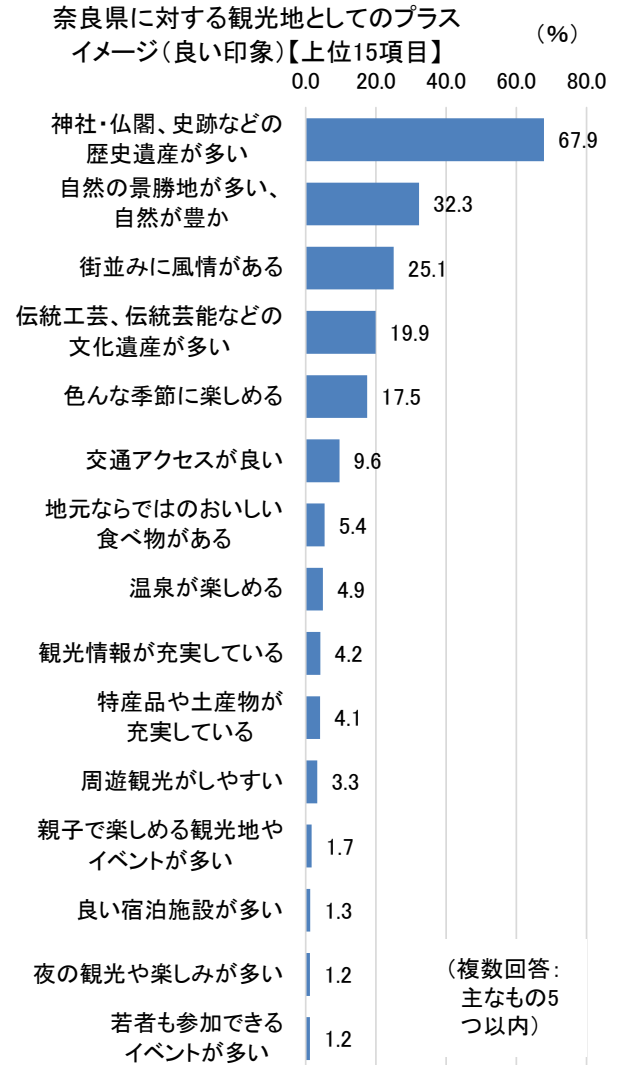
### 1. 観光地としてのプラスイメージ(複数回答)

奈良県に対する観光地としてのプラスイメージ(5つ以内)を聞いた結果、「神社・仏閣、史跡などの歴史遺産が多い」が67.9%と最多、次いで「自然の景勝地が多い、自然が豊か」32.3%、「街並みに風情がある」25.1%、「伝統工芸、伝統芸能などの文化遺産が多い」19.9%、「色んな季節に楽しめる」17.5%が続く。なお、「プラスイメージを持っていない」は12.3%。

「神社・仏閣、史跡などの歴史遺産が多い」は、男女とも60-74歳で各々79.2%、76.6%と多い。

「自然の景勝地が多い、自然が豊か」も、男女とも60-74歳で各々39.7%、40.1%と多い。「街並みに風情がある」は、女性60-74歳で32.5%と多く、同30歳代・40歳代も31.0%と多い。

居住地別では3府県とも「神社・仏閣、史跡などの歴史遺産が多い」が最多〔大阪府65.9%、兵庫県70.2%、京都府69.9%〕。「自然の景勝地が多い、自然が豊か」は大阪府で35.8%とやや多く、「伝統工芸、伝統芸能などの文化遺産が多い」は兵庫県で23.8%とやや多い。「交通アクセスが良い」は大阪府で12.4%とやや多い。



### 奈良県に対する観光地としてのプラスイメージ(良い印象)【性別・年代別、上位10項目】

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性					女性				
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-74歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-74歳
神社・仏閣、史跡などの歴史遺産が多い	67.9	47.6	60.4	69.0	64.8	79.2	58.6	67.6	63.1	74.1	76.6
自然の景勝地が多い、自然が豊か	32.3	25.7	25.1	27.4	25.3	39.7	28.7	35.8	31.9	32.0	40.1
街並みに風情がある	25.1	19.3	22.5	13.9	21.2	29.9	14.8	31.0	31.0	24.5	32.5
伝統工芸、伝統芸能などの文化遺産が多い	19.9	19.3	27.9	24.5	11.6	31.0	15.6	17.3	11.4	15.6	19.4
色んな季節に楽しめる	17.5	14.7	17.5	15.6	17.2	17.9	10.9	16.4	15.9	13.2	27.5
交通アクセスが良い	9.6	9.8	4.8	12.6	14.2	16.4	6.9	4.6	9.5	6.9	7.5
地元ならではのおいしい食べ物がある	5.4	7.3	12.9	4.2	3.0	2.0	8.6	5.9	4.6	5.5	4.2
温泉が楽しめる	4.9	5.3	5.5	4.8	5.5	5.9	1.7	5.1	6.5	3.8	4.2
観光情報が充実している	4.2	5.9	6.1	2.7	5.8	7.5	0.8	3.0	5.0	2.5	2.4
特産品や土産物が充実している	4.1	9.0	8.0	2.5	3.2	3.7	5.0	2.7	7.0	0.9	2.0

## 2. 観光地としてのマイナスイメージ(複数回答)

奈良県に対する観光地としてのマイナスイメージ(5つ以内)を聞いた結果、「交通アクセスが悪い・不便」が26.0%と最多、次いで「テーマパーク、レジャー施設が少ない」25.1%、「歴史遺産以外の観光スポットが少ない」17.3%、「地元ならではのおいしい食べ物が少ない」16.5%、「周遊観光がしにくい」15.6%、「夜の観光や楽しみが少ない」15.0%が続く。「マイナスイメージを持っていない」は20.4%。

「テーマパーク、レジャー施設が少ない」は、男性30歳代で41.5%と多く、女性20歳代で36.0%と多い。「地元ならではのおいしい食べ物が少ない」は、男女とも60-74歳で各々23.4%、21.6%と多い。「楽しめる温泉が少ない」は、男性60-74歳で26.1%と多く、「良い宿泊施設が少ない」も男性60-74歳で20.8%と多い。

居住地別にみると、大阪府は「テーマパーク、レジャー施設が少ない」が25.5%と最も多く、兵庫県は「交通アクセスが悪い・不便」が31.3%と最も多い。また、「歴史遺産以外の観光スポットが少ない」は、京都府で20.7%、兵庫県で18.3%とやや多い。



奈良県に対する観光地としてのマイナスイメージ(悪い印象)【性別・年代別、上位10項目】

* 全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	全体	男性					女性				
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-74歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60-74歳
交通アクセスが悪い・不便	26.0	18.8	22.9	26.2	24.9	25.1	22.5	30.4	28.7	27.7	28.9
テーマパーク、レジャー施設が少ない	25.1	15.0	41.5	27.4	22.3	15.9	36.0	32.3	28.9	24.9	16.9
歴史遺産以外の観光スポットが少ない	17.3	20.1	22.2	18.2	17.5	20.1	15.6	12.4	15.8	19.7	13.6
地元ならではのおいしい食べ物が少ない	16.5	13.3	11.5	16.4	16.0	23.4	11.2	11.0	12.3	19.3	21.6
周遊観光がしにくい	15.6	12.7	12.8	19.2	9.1	20.0	8.9	17.4	12.7	15.5	19.6
夜の観光や楽しみが少ない	15.0	17.2	19.5	18.7	13.0	17.6	10.2	14.9	12.1	17.1	10.8
観光情報が少ない	14.8	9.6	23.9	12.2	5.8	10.0	15.2	16.7	13.2	12.6	23.9
楽しめる温泉が少ない	14.3	6.3	14.7	15.4	15.1	26.1	6.6	5.8	8.1	17.5	17.1
良い宿泊施設が少ない	13.2	13.3	13.9	14.8	13.0	20.8	5.5	7.0	5.4	16.4	16.1
飲食店が少ない	11.7	11.3	9.8	18.3	10.3	12.1	6.9	6.7	11.5	11.6	13.7

### 3. 奈良県の観光地等に対する興味・関心

奈良県の観光地・観光施設等に対する興味・関心の有無を聞いた結果、「どちらとも言えない」が34.3%と最も多く、「興味・関心がある」が12.1%、「少し興味・関心がある」が29.5%と、計41.6%が興味・関心があると回答〔男女とも60-74歳、女性40歳代が多い〕。一方、「興味・関心がない」が8.3%、「あまり興味・関心がない」が15.8%と、計24.1%が興味・関心がないと回答〔男性20歳～40歳代、女性20歳代が多い〕。

居住地別でみると、「(少し) 興味・関心がある」は大阪府で43.9%と多く、京都府で32.9%とやや少ない。

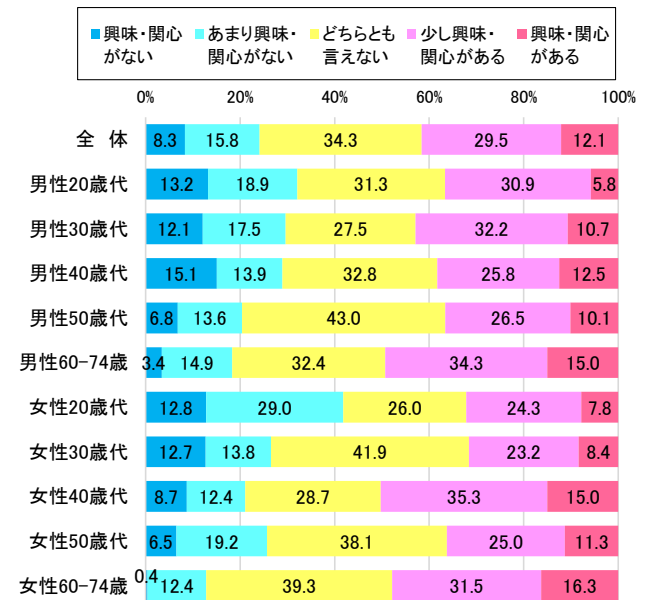
5年程前と比較して、観光地としての奈良県への興味・関心がどのように変化したか聞いた結果、「以前と変わらない」が75.0%と最多、次いで「やや高くなった」13.7%、「やや低くなった」4.1%となっている（図表非掲載）。

### 4. 奈良県への興味・関心が低下した理由(複数回答)

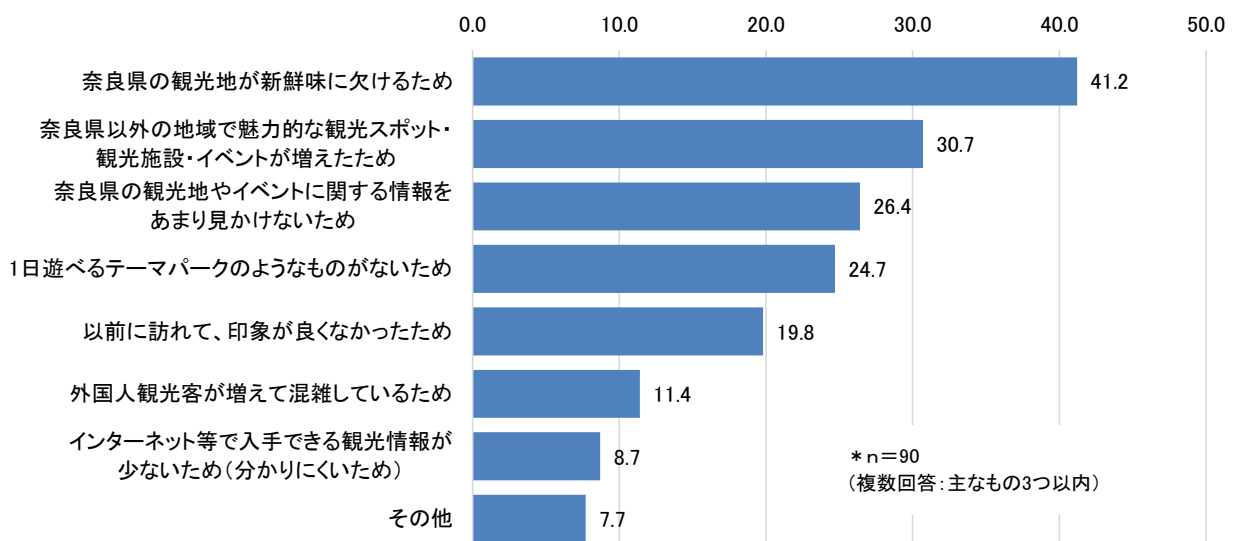
奈良県への興味・関心が「(やや) 低くなった」と回答した人 (n=90) に、興味・関心が

低下した理由（3つ以内）を聞いた結果、「奈良県の観光地が新鮮味に欠けるため」が41.2%と最も多く、次いで「奈良県以外の地域で魅力的な観光スポット・観光施設・イベントが増えたため」30.7%、「奈良県の観光地やイベントに関する情報をあまり見かけないため」26.4%、「1日遊べるテーマパークのようなものがないため」24.7%が続く。

奈良県の観光地等に対する興味・関心の有無【性別・年代別】



奈良県への興味・関心が低下した理由



## 5 奈良県観光の評価、訪問意向等

### 1. 観光・宿泊施設や地域としての受入態勢等の評価

3人に1人（35.4%）が「（やや）遅れている」と回答、主要顧客層である女性60-74歳に限ると45.1%と評価が厳しい。一方、「（やや）進んでいる」は6.5%に留まり、「どちらとも言えない」は45.5%、「わからない」は12.6%。

### 2. 奈良県の観光地としての評価〔他府県との比較〕

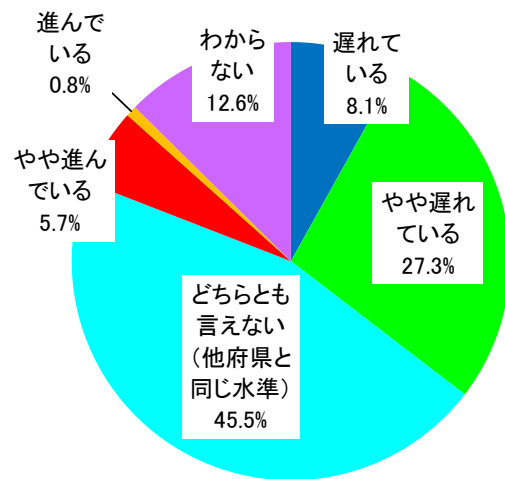
「奈良県の総合的な満足度」は「（やや）良い」が30.8%、「（あまり）良くない」が17.8%、「どちらともいえない」が42.5%。

個別項目の評価について「（やや）良い」は、「居住地からのアクセスの良さ」41.8%と「観光地としての全般的なイメージ（雰囲気・情緒）」33.4%が多い。また、「（やや）良い」が20～30%の項目は、「観光地への案内表示・看板等」25.3%、「旅行計画のしやすさ」21.9%、「出発前の情報入手のしやすさ」21.4%などの4

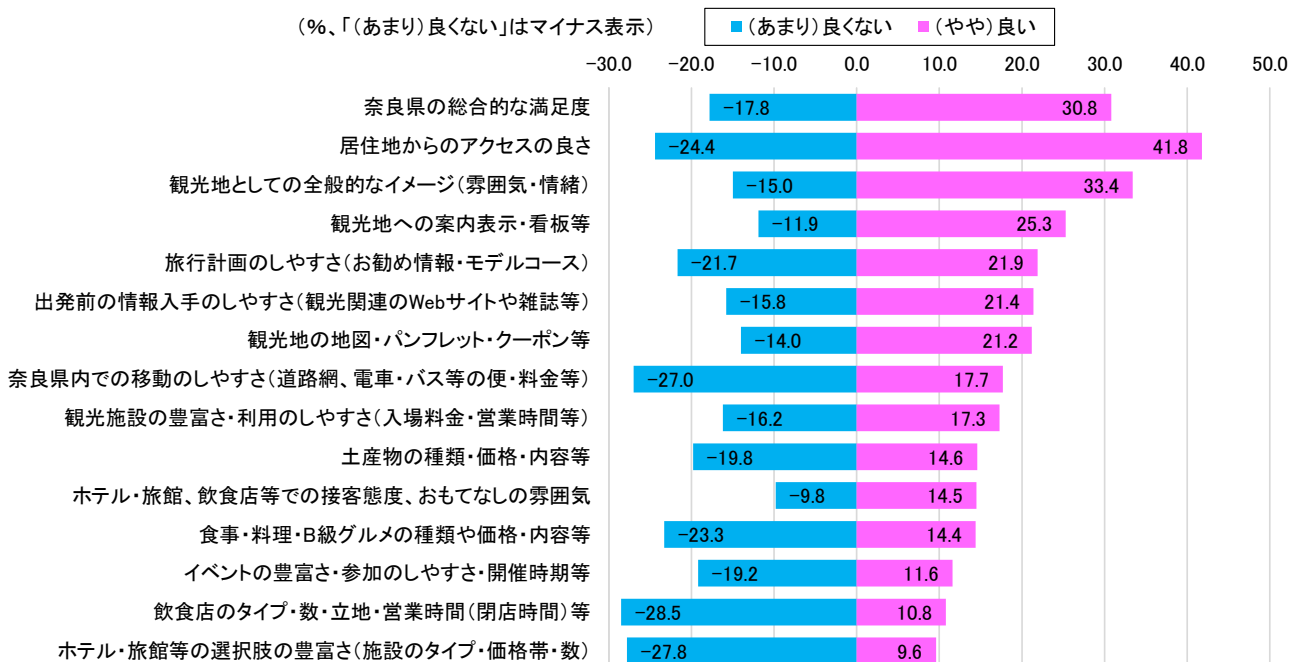
項目となっている。

一方、「（あまり）良くない」が20%以上の項目は、「飲食店のタイプ・数・立地・営業時間等」28.5%、「ホテル・旅館等の選択肢の豊富さ」27.8%、「奈良県内での移動のしやすさ」27.0%、「居住地からのアクセスの良さ」24.4%などの6項目となっている。

奈良県の観光・宿泊施設や地域としての受入態勢等の評価〔他府県との比較〕



奈良県の観光地としての評価〔他府県との比較〕〔2項目以降は「（やや）良い」の降順〕





### 3. 奈良県観光に関する考え方・行動等

「(やや) そう思う」が40.0%以上の項目は、「神社仏閣以外の観光スポットや施設を知らない」46.7%と「泊まってみたいと思う旅館・ホテルが少ない」44.2%の2項目となっている。

また、「(やや) そう思う」が30~40%の項目は、「訪れたいと思う観光地・観光施設が少ない」39.6%、「京都のような賑やかさ、華やかさがないところが、逆に奈良のよいところである」36.0%、「奈良観光と言えば、『奈良市』しか思い浮かばない」34.9%、「手軽に泊まれるビジネスホテルなどが少ない」34.6%、「奈良県での日帰り観光の滞在時間は、他府県への日帰り観光の時よりも短い」31.8%、「奈良県観光の際の支出金額(飲食・土産等)は、他府県への観光の時よりも少ない」31.4%の6項目となっている。

一方、「(あまり) そう思わない」が30.0%以上の項目は、「京都観光よりも、奈良を巡る観光の方が好きである」46.7%と「奈良観光と言え

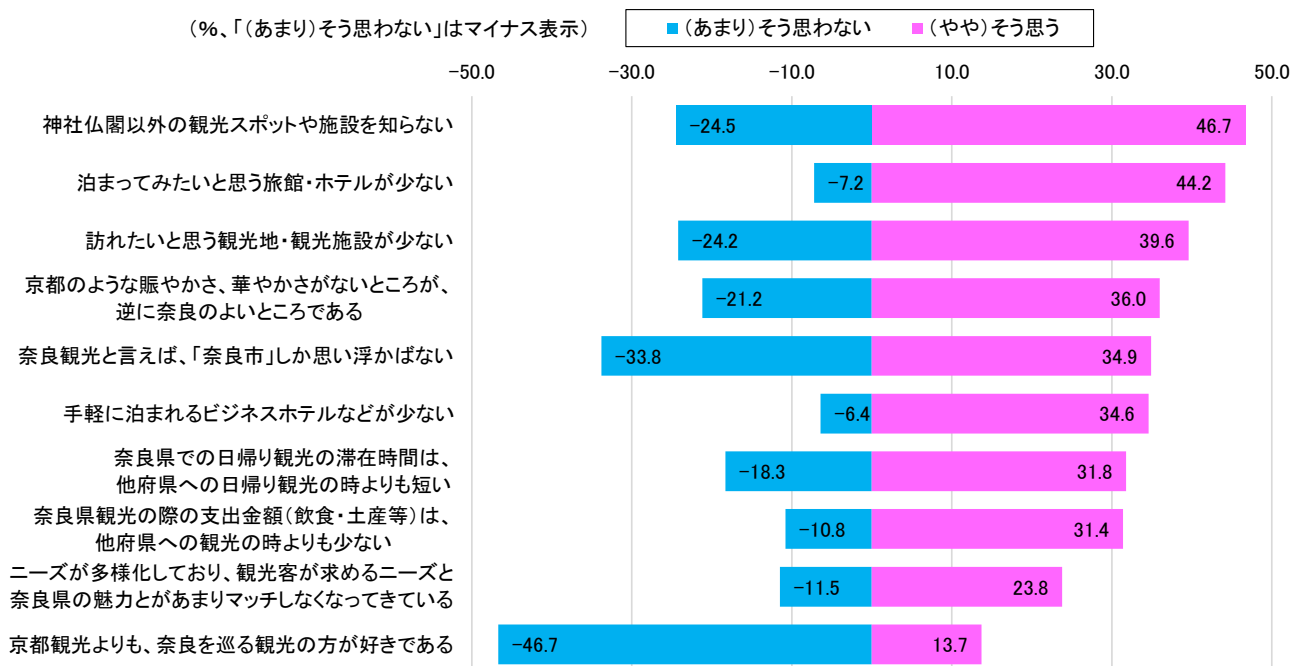
ば、『奈良市』しか思い浮かばない」33.8%の2項目となっている。

また、「(あまり) そう思わない」が20~30%の項目は、「神社仏閣以外の観光スポットや施設を知らない」24.5%、「訪れたいと思う観光地・観光施設が少ない」24.2%、「京都のような賑やかさ、華やかさがないところが、逆に奈良のよいところである」21.2%の3項目となっている。

なお、「ニーズが多様化しており、観光客が求めるニーズと奈良県の魅力とがあまりマッチしなくなっている」は、「(やや) そう思う」が23.8%、「(あまり) そう思わない」が11.5%。

項目ごとに性別・年代別の「(やや) そう思う」の最高値(割合)をみると、「神社仏閣以外の観光スポットや施設を知らない」は男性30歳代が56.0%、「訪れたいと思う観光地・観光施設が少ない」は女性20歳代が56.2%、「京都のような賑やかさ、華やかさがないところが、逆に奈良のよいところである」は女性60-74歳が51.9%。

奈良県観光に関する考え方・行動等【「(やや)そう思う」の降順】



#### 4. 奈良県への観光訪問の意向

今後、近いうちに観光目的で奈良県を訪れたいと思うか聞いた結果、「1年以内に訪れたいと思う」が27.4%と最も多く、「機会があれば訪れたいと思う」24.9%、「わからない」14.7%が続く。

一方、「訪れたいと思わない」は8.4%、「あまり訪れたいと思わない」は7.4%で、計15.8%、6人に1人が奈良県への観光訪問の意向がない。

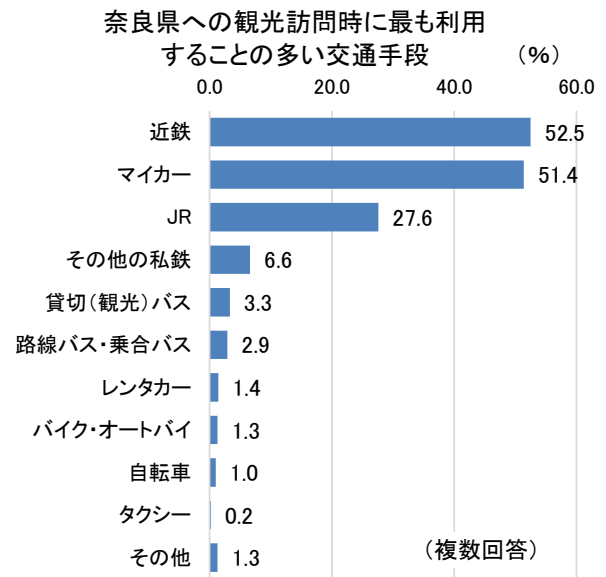
「1年以内に訪れたいと思う」は女性60-74歳で33.5%と多く、同20歳代で14.2%、同30歳代で18.6%と少ない。居住地別でみると、大阪府34.1%、京都府28.9%が多い。

「(1年以内を含む) 3年以内に訪れたいと思う」〔全体32.6%〕は、男性30歳代で38.9%、同60-74歳で38.0%、同40歳代で37.1%と多く、女性20歳代で17.5%と少ない。

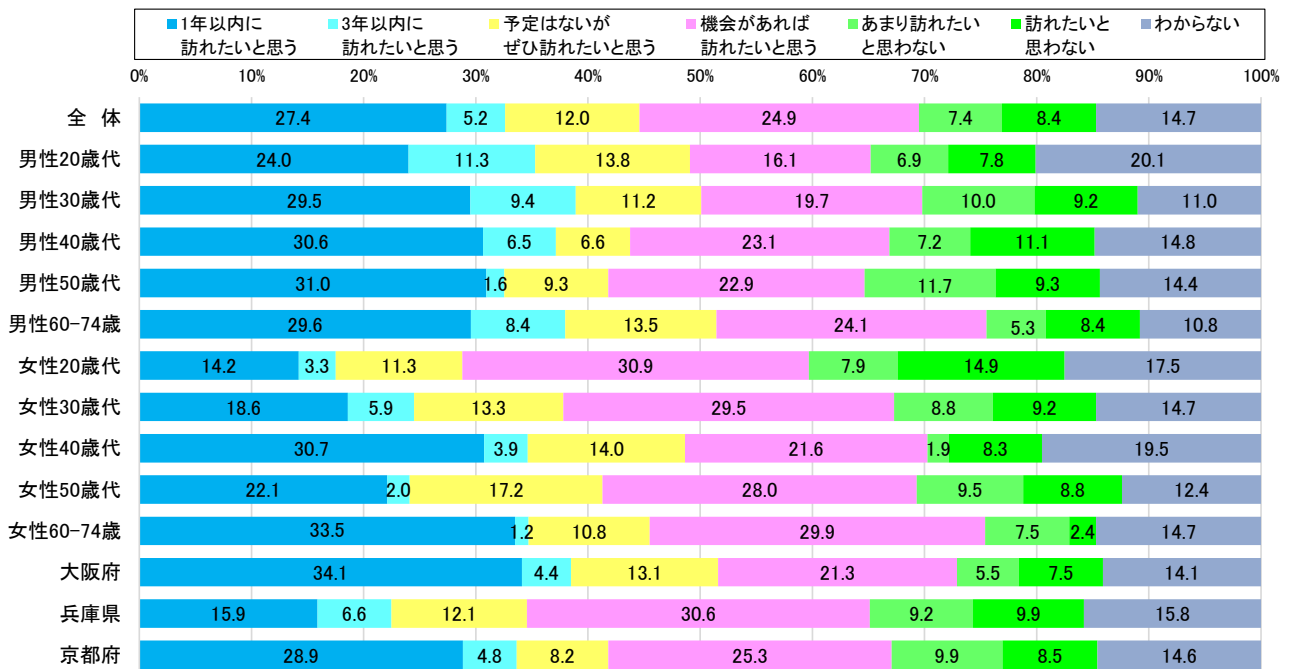
「(あまり) 訪れたいと思わない」は女性20歳代で22.8%、男性50歳代で21.0%と多く、女性60-74歳で9.9%、同40歳代で10.2%と少ない。

#### 5. 奈良県への観光訪問時に最も利用の多い交通手段(複数回答)

奈良県への観光訪問時に最も利用の多い交通手段を聞いた結果、「近鉄」52.5%が最も多く、次いで「マイカー」51.4%、「JR」27.6%、「その他の私鉄」6.6%、「貸切(観光)バス」3.3%、「路線バス・乗合バス」2.9%が続く。



奈良県への観光訪問の意向〔性別・年代別、居住地別〕



## 6. 奈良県を観光する際の帯同者(複数回答)

奈良県を観光する際にどのような方(3つ以内)と一緒に奈良県を訪れたいと思うか聞いた結果、「夫婦」34.6%が最も多く、次いで「友人同士」25.7%、「1人で」19.9%、「カップルで(彼・彼女)」11.2%が続く。

## 7. 奈良県を観光で訪れる際の観光形態(日帰り・宿泊)

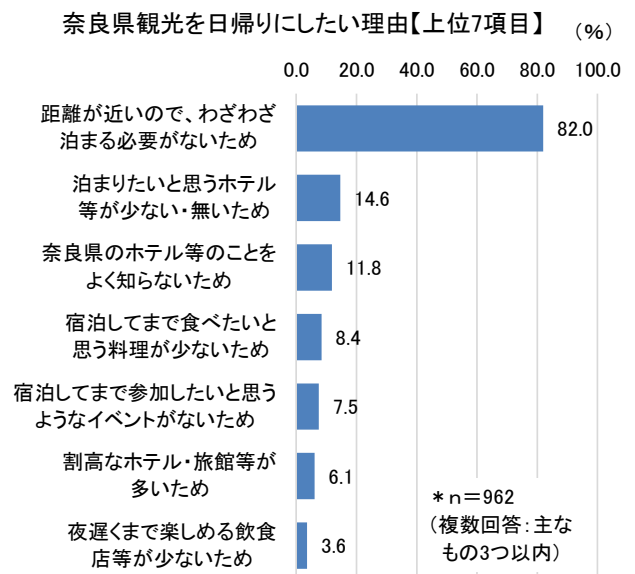
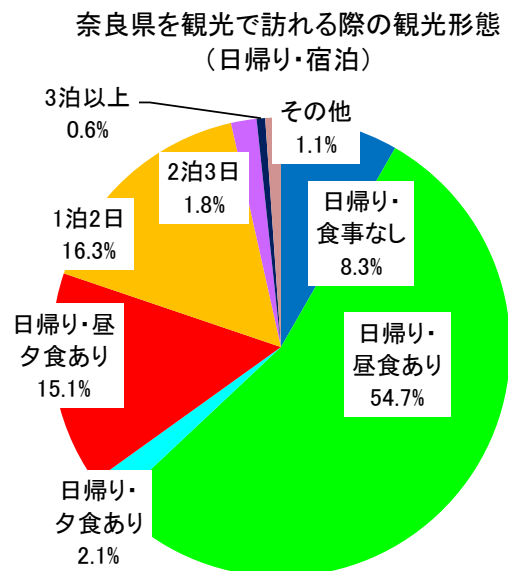
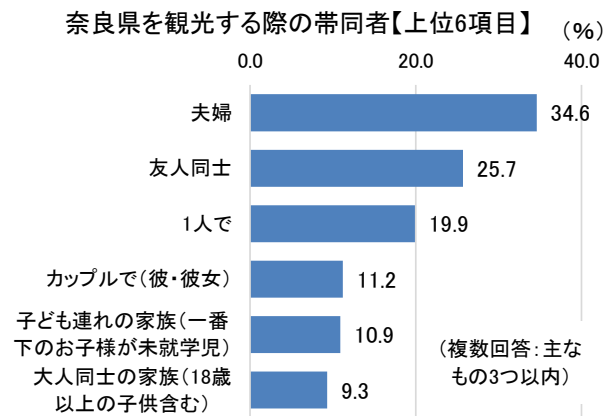
奈良県を観光で訪れる際にどのような観光形態(日帰り・宿泊)で訪れたいと思うか聞いた結果、「日帰り・昼食あり」が54.7%と最も多く、次いで「1泊2日」16.3%、「日帰り・昼夕食あり」15.1%、「日帰り・食事なし」8.3%が続く。

「日帰り・昼食あり」は大阪府59.2%が多く、兵庫県45.9%が少ない。「日帰り・昼夕食あり」は大阪府17.2%が多く、「1泊2日」は兵庫県28.1%、京都府15.1%が多い〔大阪府9.4%〕。

## 8. 奈良県観光を日帰りにしたい理由(複数回答)

奈良県を訪れる際の観光形態で「日帰り」を選択した人(n=962)にその理由(3つ以内)を聞いた結果、「距離が近いので、わざわざ泊まる必要がないため」が82.0%と最も多く、次いで「泊まりたいと思うホテル等が少ない・無いため」14.6%、「奈良県のホテル等のことをよく知らないため」11.8%、「宿泊してまで食べたいと思う料理が少ないため」8.4%、「宿泊してまで参加したいと思うようなイベントがないため」7.5%、「割高なホテル・旅館等が多いため」6.1%、「夜遅くまで楽しめる飲食店等が少ないため」3.6%が続く。

「距離が近いので、わざわざ泊まる必要がないため」は男性60-74歳が87.0%で最多、「泊まりたいと思うホテル等が少ない・無いため」も男性60-74歳が20.7%で最多。「とくに理由はない(なんとなく)」は男性20歳代が15.9%で最多。



## 9. 奈良県観光で最も重視・期待すること

奈良県への観光旅行で何を最も重視・期待するか聞いた結果、「文化的な名所旧跡（寺社仏閣、城郭、歴史的景観等）を見ること」が41.3%と最も多く、次いで「自然景観を見ること」12.1%、「おいしいものを食べること」11.2%、「観光・文化施設（美術館・水族館等）を訪れること」9.1%、「温泉に入ること」6.0%、「街や都市を訪れること」5.2%が続く。

「文化的な名所旧跡を見ること」は男女とも60-74歳で各々57.9%、51.0%と多い。「自然景観を見ること」は女性40歳代で48.4%と多い。「おいしいものを食べること」は男女とも20歳代で各々22.1%、21.6%と多く、「温泉に入ること」は男性50歳代で11.2%と多い。

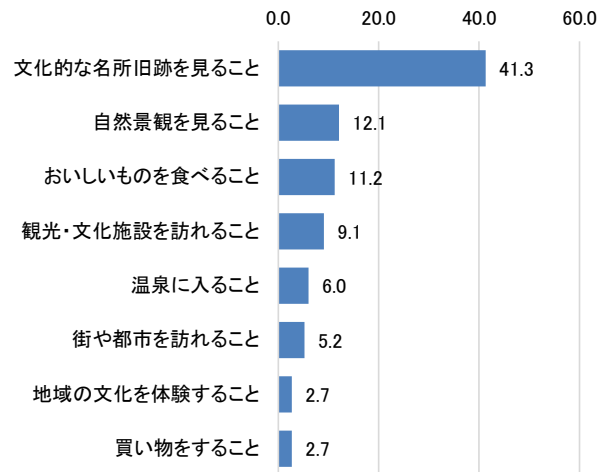
居住地別にみると、「文化的な名所旧跡を見ること」は兵庫県45.8%で多く、「自然景観を見ること」は大阪府13.7%と多い。また、「おいしいものを食べること」は京都府15.7%と多い。

## 10. 奈良県観光に関する情報収集の有無

過去1年間にPC・スマホ（インターネット検索）や観光ガイドブックを利用（閲覧）して、自分で奈良県の観光情報について調べたことがあるか聞いた結果、「調べたことがない（0回）」が69.4%と最も多く、「1回だけある」12.0%、「2～3回ある」12.5%、「4回以上ある」6.1%となっている。

「調べたことがない（0回）」は女性30歳代で74.7%、同50歳代で74.1%と多い。「1回だけある」は女性20歳代で14.2%、女性30歳代で14.5%と多い。「2～3回ある」は女性40歳代で20.1%、男性60-74歳で19.0%と多い。「4回以上ある」は男性30歳代～50歳代が約9%と多い。

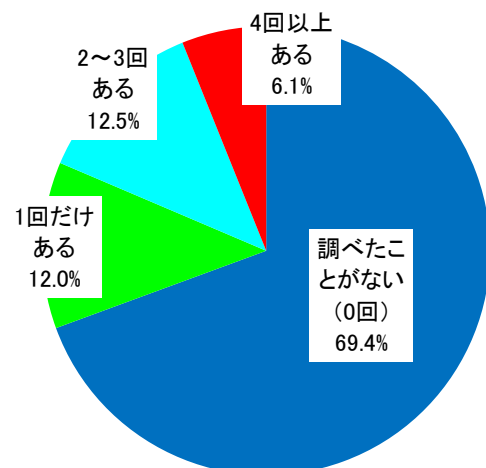
奈良県観光で最も重視・期待すること【上位8項目】 (%)



奈良県観光で最も重視・期待すること【性別・年代別、上位6項目】

*全体より5ポイント以上多い 数値は赤字。	文化的な名所旧跡を見ること	自然景観を見ること	おいしいものを食べること	観光・文化施設を訪れること	温泉に入ること	街や都市を訪れること
全体	41.3	12.1	11.2	9.1	6.0	5.2
男性20歳代	26.3	8.3	22.1	6.6	3.4	10.3
男性30歳代	35.6	11.2	15.6	6.6	7.3	7.3
男性40歳代	40.8	9.8	13.0	10.0	10.8	4.5
男性50歳代	44.6	10.2	5.3	9.2	11.2	3.3
男性60-74歳	57.9	12.6	2.9	7.9	5.5	3.3
女性20歳代	27.1	13.1	21.6	11.5	0.8	7.9
女性30歳代	35.3	11.7	16.2	8.9	2.9	5.1
女性40歳代	33.6	18.4	12.8	9.4	4.3	3.7
女性50歳代	41.1	10.2	16.8	7.4	7.5	4.1
女性60-74歳	51.0	12.9	1.2	11.7	5.5	5.5

奈良県観光に関する情報収集の有無【過去1年間】



### 11. 奈良県観光の機会を増やしたいと思う要因(複数回答)

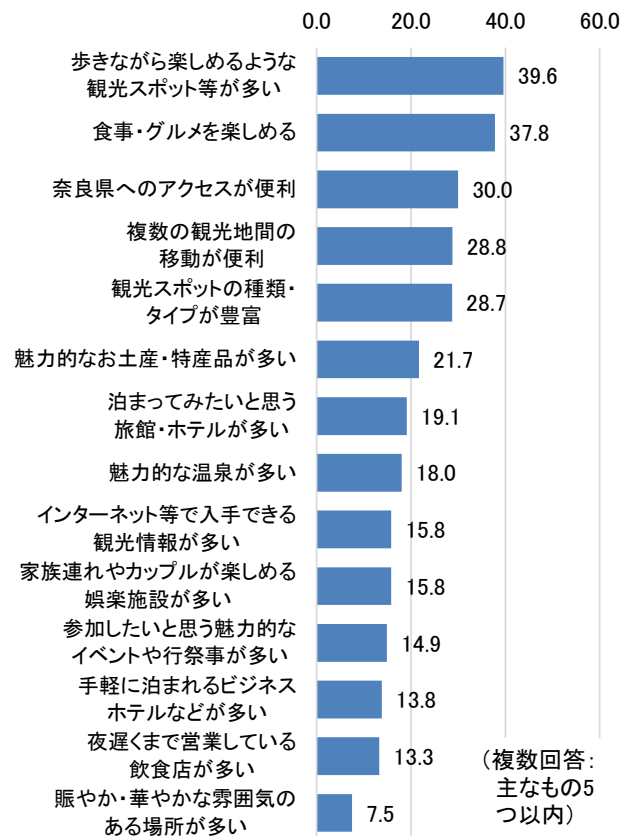
奈良県の観光地がどのようになれば、奈良県観光の機会を増やしたいと思うか(観光地として望む変化：5つ以内)聞いた結果、「ぶらぶら歩きながら楽しめるような観光スポットや街並みが多い」が39.6%と最も多く、次いで「食事・グルメを楽しめる(おいしい料理を味わえる店が多い)」37.8%、「奈良県へのアクセスが便利」30.0%、「複数の観光地間の移動が便利」28.8%、「観光スポットの種類・タイプが豊富(訪れたいと思う観光地・観光施設が多い)」28.7%、「魅力的なお土産・特産品が多い」21.7%、「泊まってみたくと思う旅館・ホテルが多い」19.1%などが続く。なお、「とくにない」は13.6%。

「ぶらぶら歩きながら楽しめるような観光スポットや街並みが多い」は女性60-74歳が49.6%と多く、「食事・グルメを楽しめる」は女性30歳代が47.8%と多い。「奈良県へのアクセスが便利」は女性60-74歳が40.8%と多く、「複数の観光地間の移動が便利」は男女とも60-74歳で各々43.0%、44.2%と多い。また、「手軽に泊まれるビジネスホテルなどが多い」は男性20歳代～40歳代が20%前後と多い。

居住地別にみると、「観光スポットの種類・タ

イプが豊富」は兵庫県が33.5%と多く(京都府25.0%)、「参加したいと思う魅力的なイベントや行祭事が多い」は京都府が19.0%と多い(兵庫県9.6%)。

奈良県観光の機会を増やしたいと思う要因【上位14項目】 (%)



奈良県観光の機会を増やしたいと思う要因【性別・年代別、上位12項目】

*全体より5ポイント以上多い数値は赤字。	歩きながら楽しめるような観光スポット等が多い	食事・グルメを楽しめる	奈良県へのアクセスが便利	複数の観光地間の移動が便利	観光スポットの種類・タイプが豊富	魅力的なお土産・特産品が多い	泊まってみたく思う旅館・ホテルが多い	魅力的な温泉が多い	インターネット等で入手できる観光情報が多い	家族連れやカップルが楽しめる娯楽施設が多い	参加したいと思う魅力的なイベントや行祭事が多い	手軽に泊まれるビジネスホテルなどが多い
全体	39.6	37.8	30.0	28.8	28.7	21.7	19.1	18.0	15.8	15.8	14.9	13.8
男性20歳代	21.8	22.4	17.2	17.3	18.8	12.4	14.1	15.3	17.3	16.3	13.7	17.7
男性30歳代	33.8	37.8	23.0	23.5	24.6	25.6	18.3	20.5	20.0	26.3	18.8	19.8
男性40歳代	34.5	41.2	18.9	25.5	26.1	17.4	19.6	15.7	24.7	22.7	16.5	21.2
男性50歳代	35.8	34.4	36.7	20.6	31.8	11.9	15.8	24.7	9.6	6.2	9.4	11.7
男性60-74歳	41.3	36.4	32.6	43.0	35.8	20.2	23.0	21.7	21.3	6.7	13.8	11.7
女性20歳代	39.3	39.2	13.7	17.5	23.4	27.5	12.8	15.0	13.9	29.4	12.2	9.8
女性30歳代	42.2	47.8	31.7	18.5	26.9	20.6	15.3	14.7	17.9	32.2	15.4	12.8
女性40歳代	43.0	32.5	34.7	26.4	28.4	23.9	17.9	13.9	12.7	16.8	18.3	8.3
女性50歳代	42.4	43.5	37.7	27.7	31.3	28.2	23.8	17.3	10.0	10.0	20.0	10.4
女性60-74歳	49.6	40.0	40.8	44.2	31.7	25.8	22.8	19.1	9.9	4.9	11.6	14.7

## 5 奈良県観光の更なる発展に向けて

近年、全国的に「インバウンド（訪日外国人旅行）」が好調なため、奈良県でも外国人観光客が大きく増加しているが、観光入込客数（実人数）に占める割合は僅か数%に留まっている。

一方、大阪府、兵庫県、京都府の3府県からの観光入込客数は全体のほぼ半数を占めており、奈良県の観光振興を図っていくうえで、3府県の居住者に対する働きかけ、マーケティングを強化していく意義はとて大きいと考える。

### 1. 「AIDAの法則」等の視点から奈良県観光を考察

消費者が商品に接してから購買に至るまでの決定プロセスを表すものとして「<sup>アイダ</sup>AIDAの法則」（米国で主流）がある。これは「①Attention→②Interest→③Desire→④Action」のプロセスになっているが、近年はスマホやSNS<sup>(\*)</sup>・ブログ等の普及により気軽にネット検索（③-2 Search）したり、旅の途中や終了後に感想や画像等を情報共有（⑤Share）したりすることが日常生活の一部として定着している。以下、この法則等を踏まえて奈良県観光について考察する。

\*ソーシャル・ネットワーキング・サービス。

「①Attention（注意）」は、顧客が奈良県に注目する段階。奈良県を知らない人は少ないだろうが、歴史的遺産以外の観光資源や奈良県北部以外の地域の魅力など、奈良県の観光情報を積極的に発信し、顧客の注意を引くことが重要である。

「②Interest（関心）」は、顧客が観光地としての奈良県に関心を持つ段階。今回の意識調査結果によると、奈良県の観光地等に「（少し）興味・関心がある」人は4割に留まり、4人に1人は「（あまり）興味・関心がない」と回答。奈良県に興味がない人に対して様々な観光コンテンツを

訴求し、奈良県観光への関心を高めていくことが必要だ。単なるイメージの発信だけではなく、ストーリー性のある観光情報の発信や、ネット上の口コミ評価等を高める努力が欠かせない。

「③Desire（欲求）」は、観光で奈良県を訪れたいという欲求を持つ段階。同調査結果では3割の人が「1年以内に訪れたいと思う」と回答。奈良県観光に「（少し）興味・関心がある」人に限定すると45.4%と、全体より15ポイント高い。

また、週末の休日に観光旅行したい地域（近隣10府県）の1位は「京都府」47.8%が最多で、奈良県は4.8%に留まる。但し、3割の人が3位までに奈良県を想起しており、特に男女とも60-74歳の約4割の人は、3位までに奈良県を選択している。同世代への訴求を強化し、魅力的かつ多様な奈良県観光の機会を提供していくべきである。

「③-2 Search（ネット検索等）」について、最近は分からないことや気になることがあれば、即座にネット検索する人が確実に増えている。同調査結果では、過去1年間にネット検索等により奈良県の観光情報を調べた人の割合は、奈良県観光に「（少し）興味・関心がある」人に限定すると45.7%と、全体より15ポイント高い。

これらのことから、「②Interest（関心）」のプロセスで奈良県観光に興味・関心がある人を1人でも多く増やすことが、観光入込客の増大に貢献すると見込まれる。多様な手段を用いて潜在顧客のニーズを喚起し、奈良へ行きたいと思ってもらうように仕向けていかなければならない。

「④Action（行動）」は、奈良県観光の動機はあるが、その機会がない状態。同調査結果によると、是非、観光に訪れたいと思うエリアは「北部」42.1%と「南部」38.0%が拮抗しているが、実際に南部を訪れる観光入込客は少ない。

南部の観光に関心を持つ潜在顧客に対して、一歩踏み出してもらおう要因（キラーコンテンツ：奈良県独自の観光の魅力等）の開発・提供と情報発信が必要である。南部での魅力的なイベントの開催や秘伝の特別公開、期間限定の特典の提供など、新しい魅力・機会を更に積極的に提示し、観光行動の後押しを行っていくことが重要である。

「⑤Share（情報共有）」について、SNSの普及で誰もが気軽に意見や体験を書き込んだり（口コミ）、画像を公開したりすることが容易になった。特に女性の「口コミ」力はより力を増している。ただ、口コミを有効活用する大前提として、商品・サービス等が一定以上のクオリティを確保できていなければ、逆にマイナス情報が拡散するリスクもあることを我々は忘れてはならない。

## 2. 観光施設や地域としての受入態勢等の向上を

同調査結果によると、奈良県の観光施設や地域としての受入態勢等の評価は、「(やや) 進んでいる」が6.5%に留まる。一方、3人に1人が「(やや) 遅れている」と回答。奈良ファンが比較的多い女性60-74歳に限ると、同割合はほぼ2人1人（45.1%）と厳しい評価になっている。同顧客層は数多くの観光地を訪れて目が肥えていることから、我々は厳しい評価を真摯に受け止め、改善努力を尽くしていくことが大切である。

個別項目では、4割強の人が「泊まってみたいと思う旅館・ホテルが少ない」、4割弱の人が「手軽に泊まれるビジネスホテルなどが少ない」と回答しており、宿泊施設の充実を期待したい。

また、4割弱の人が「京都のような賑やかさ、華やかさがないところが、逆に奈良のよいところである」と回答。主要顧客層である女性60-74歳に限ると同意見は過半数をしめており、大切に守っていかなければならない要素と考える。

ただ、奈良市内中心部のごく一部のエリアを除き、このままシャッター通りが更に増えていくことは、「賑やかさがない」から「さびれている」へとイメージが悪化しかねないと懸念している。

三重県の伊勢内宮前おかげ横丁や岐阜県飛騨高山の古い町並などでは、年配客だけでなく、若者、特に若い女性も多く見かける。このように幅広い年代層に受け入れられる賑やかさの演出はとても重要であり、学ぶべき点は多いと考える。

同調査結果をみても、「飲食店のタイプ・数・立地・営業時間等」「食事・料理・B級グルメの種類や価格・内容等」などは、2~3割の人が「(あまり) 良くない」と評価しており、今後の改善を期待したい。

## 3. 歴史・文化以外の観光地点へも誘客強化を

### ●観光イメージは歴史・文化に大きく偏りがち

同調査結果によると、観光地としてのプラスイメージを聞いた結果、7割の人が「神社・仏閣、史跡などの歴史遺産が多い」と回答。また、奈良県観光で最も重視・期待することとして4割の人が「文化的な名所旧跡を見ること」と回答。

一方、5割弱の人が「神社仏閣以外の観光スポットや施設を知らない」、4割の人が「訪れたいと思う観光地・観光施設が少ない」と回答しており、近隣府県の居住者からみた場合、奈良県の観光イメージは歴史・文化に大きく偏りがちである。

### ●観光入込客数は歴史・文化の観光地点が6割

歴史・文化への偏りを観光庁の「共通基準による観光入込客統計」で確認すると、年間1万人以上が訪れる等の条件にあう観光地点<sup>(\*)1</sup>は、奈良県内に198地点（2015年時点）あり、そのうち歴史・文化関連が91地点（37道県<sup>(\*)2</sup>）：13位と全体の46.0%〔37道県：27.3%〕を占める。また、観光入込客数（延べ数）は、歴史・文化の観光地

点が全体の59.9%〔同21.3%〕を占めている。

\*1: 次の3つの要件を満たすものが推計対象。行祭事・イベントは②及び③の要件を満たすものが対象。

①非日常利用が多い（月1回以上の頻度で訪問する人数の割合が半分未満）と判断される地点である。

②観光入込客数が適切に把握できる地点である。

③前年の観光入込客数が年間1万人以上、若しくは前年の特定月の観光入込客数が5千人以上である。

\*2: 京都府は、観光地点の捉え方が他府県と異なり比較ができないため、集計対象から除外。

一方、スポーツ・レクリエーションは県内19地点（37位）、都市型観光<sup>(\*)</sup>は3地点（36位）、行祭事・イベントは57地点（32位）と少ない。尚、人口規模が奈良県とほぼ同じである滋賀県の観光地点は全体で353地点（奈良県の1.8倍）、都市型観光は29地点（同9.7倍）、行祭事・イベントは94地点（同1.6倍）と奈良県よりも格段に多い。

\* 商業施設や地区・商店街の朝市・市場等（日常利用が大半を占めるものは含めない）、食をテーマとした観光利用の拠点、農水産品等の直売所、物産館等、道の駅、パーキングエリア等。

人口10万人当たり観光地点数をみると、奈良県は14.5地点（29位）また、温泉・健康やスポーツ・レクリエーション、都市型観光などの1地点当たりの年間観光入込客数（延べ数）は、37道県の水準を大きく下回る。

### ●観光入込客数は行祭事・イベントでも大幅増加

奈良県の2015年の観光入込客数（延べ数）は41,461千人で、2011年比で8,154千人増加、24.5%増加（37道県：19.6%）した。増加分のうち、歴史・文化が全体の43.1%（同18.1%）、行祭事・イベントが42.3%（同17.5%）を占めており、歴史・文化と行祭事・イベントへの依存度が高い。一方、都市型観光は37道県で15.8%増加したが、奈良県は13.2%減少した。

奈良県内では各種イベントが増加しているが、残念ながら認知度の低いものが多い。認知度の更なる向上と共に、県外イベントとの差別化を図る

ことで来県客及び観光消費額の増加を期待したい。

### ●歴史・文化以外の観光地点の発掘・育成を

前述のとおり、奈良県は観光地点の約5割、観光入込客数（延べ数）の6割が「歴史・文化」に依存している。しかしながら、別の見方をすると、歴史遺産に安住することなく、他府県のように歴史・文化以外の観光地点の開発・充実とともに、食・グルメなど新たな観光資源の発掘・創造や、観光地点単位での集客力向上、情報発信の強化などに取り組むことで、歴史・文化に関心の低い層を含め、幅広い世代の多様な観光ニーズを取り込む余地が大きいとも言える。

今回の意識調査結果では、奈良県には「訪れたいと思う観光地・観光施設が少ない」という意見は、女性20歳代（56.2%）、同30歳代（46.7%）、男性30歳代（52.8%）、同20歳代（44.4%）で特に多いのが気付きである。

若い女性からの支持を維持・獲得できないと、将来的に重要な潜在観光客が大きく減少する可能性がある。彼女らの感覚やライフスタイルを常に意識し、県内の豊富な自然や歴史・文化遺産の楽しみ方を積極的に提案・発信していくべきである。

現在の主要顧客層である高齢者だけではなく、若い世代からも支持されるような、イメージアップ、観光地づくりに取り組んでいくことが必要だ。

同調査結果では、奈良県観光の機会を増やしたいと思う要因として、4割の人が「ぶらぶら歩きながら楽しめるような観光スポットや街並みが多い」39.6%、「食事・グルメを楽しめる」37.8%と回答。この2要因は都市型観光に該当するもので、奈良県観光の魅力を高めていくうえで改善が不可欠と言える。2要因の改善は、女性60-74歳や同30歳代、男女20歳代の奈良県観光への期待を高めることにも貢献すると考える。



#### 4. 時間距離を考慮した観光マーケティングの実践

今回の意識調査では、回答者の自宅から奈良市中心街までの所要時間<sup>(\*)</sup>についても質問し、奈良県観光に関する意識等との関連性を考察した。その結果、概ね90～120分（宿泊は150～180分）の段階（壁）で意識・行動の変化が見られた。

一律的または府県単位ではなく、時間距離を意識した市町村単位での重点的な観光戦略・マーケティング（ポスター掲示、タウン誌等への広告、旅行代理店への働きかけ等）の実施が期待される。

\*最も利用の多い交通手段を利用した際の自宅から奈良市中心街（近鉄奈良駅付近）までの所要時間。

##### 【主なポイント】

- ・「今後の奈良県観光の頻度」について、「6か月に1回以上」は所要時間60分未満が54.0%、90～120分未満が24.2%。
- ・「過去10年間の観光での奈良県への訪問回数」について、「6回以上」は90分未満が約3割。「11回以上」に限ると60分未満が26.2%、60～90分未満が16.1%と多く、近隣に奈良観光の熱心なファン層が存在していることがわかる。
- ・「今後、是非、観光に訪れたいと思うエリア」について、県南部は60分未満が51.7%、60～90分未満が44.9%と多い（全体38.0%）。
- ・「奈良県の総合的な満足度」について、「(やや)良い」は60分未満が47.5%と多く、90～150分未満が20%後半に減少。
- ・「奈良県への観光訪問の意向」について、「1年以内に訪れたいと思う」は60分未満が48.9%、90～120分未満が24.3%とほぼ半減。
- ・「奈良県を観光で訪れる際の形態」について、宿泊は90分未満が10%前後と少ないが、90～150分未満が20%前後、150～180分未満が43.1%と増加。

#### 5. 「観光消費額」「経済波及効果」の拡大に向けて

観光振興について語られる際、「〇年迄に観光入込客数〇千万人を達成」など、目標人数に注目が集まりがちであるが、企業の売上高に該当する「観光消費額」や付加価値総額に該当する「経済波及効果」の拡大を最終目標として掲げていくことが重要である。

##### ●観光消費額単価の引き上げは不可欠

観光消費額は「観光入込客数（実数）×観光消費額単価」の計算式に展開できる。前述のとおり、奈良県の日本人・観光目的の観光入込客数（実数）は20,834千人回で、9割以上が日帰り。特に日帰り・県外居住者は全体の7割を占めるが、観光消費額単価は4,446円（37位）で39都道府県平均より4割以上少なく、せつかくの観光客誘致が観光消費額の拡大に結び付きにくい状況にある。

今回の調査結果によると、約3割の人が「奈良県での日帰り観光の滞在時間は、他府県への日帰り観光の時よりも短い」、「奈良県観光の際の支出金額（飲食・土産等）は、他府県への観光の時よりも少ない」と回答しており、その原因と解決策の探究に結びつくような調査の実施が望まれる。

また、県外からの観光入込客数を増やす努力よりも、奈良県内に少しでも長く滞在してもらい、少しでも多く買いたい、利用したいと思ってもらえるような商品・サービス・体験等の開発・提供に重点を置いていくべきであると考えられる。

##### ●県内自給率の低さがボトルネック<sup>(\*)</sup>に

観光消費の増加に伴い経済波及効果も比例的に増えることを期待したいが、奈良県は県内自給率の低さがボトルネックとなっている。奈良市の観光産業事業者の主な仕入・材料費等の支払い地域をみると、奈良市は県外からの購入が50.2%と全国（38.3%）より約12ポイント高い。すなわ

ち、県外からの調達が多く、県内からの調達が少ない（県内自給率が低い）ことを意味している。

観光産業事業者の主な仕入・材料費、外注費の支払地域(構成比)

(%)	総数		宿泊事業、飲食サービス事業		小売業	
	全国	奈良市	全国	奈良市	全国	奈良市
同一市区町村内	19.4	19.6	41.7	48.3	14.8	6.5
同一都道府県内	37.0	29.7	33.0	14.5	39.4	41.4
他の都道府県から	<b>38.3</b>	<b>50.2</b>	<b>22.6</b>	<b>35.8</b>	<b>41.9</b>	<b>52.0</b>
輸入	2.3	0.4	1.8	1.4	1.6	-

資料:観光庁「2012年観光地域経済調査」

\* 隘路(あいろ)。物事を進めるうえでの妨げとなるもの。全体の能力や成果に影響する問題となる要因。

いくら奈良県内での観光消費が増えても、県内自給率を高める努力をしない限り県内に落ちるお金は少なく、奈良県内で観光消費されたお金のほぼ半分がそのまま県外に流出していく状況が続くことになる。

農業の6次産業化などにより地産地消を推進するとともに、観光関連事業者へ調査を行い、自給率の向上に寄与する関連産業を奈良県内へ積極的に誘致していくことが重要である。

## おわりに

人口減少が進んでいくなか、奈良県経済の活力を維持していくためには、奈良県観光の競争力を高めていくことが不可欠であり、多様な観光資源を発掘・活用していくという、「ダイバーシティ(多様性)」の推進も重要と考える。

歴史的遺産を大切に守り、活かしながらも、ライフスタイルや観光ニーズの多様化に対応し、潜在顧客として有望な近隣府県の居住者の方に、奈良県観光の良さを再認識してもらえよう、また新しい魅力を発見してもらえよう、奈良県も観光地として更なる変化、進化を遂げることが必要である。  
(島田清彦)

## 参考

## 調査要領・回答者の概要

### 【調査要領】

#### ①調査実施時期

2017年9月22日(金)～25日(月)

#### ②調査対象(依頼数):近隣3府県在住者8,106人

有効回答数1,200人

#### ③調査方法

(株)インテージ(市場調査・ネット調査会社)に登録しているネットモニター(20～74歳)に対してインターネット上での回答を依頼。

### 【回答者の概要】

#### ①性別

「男性」48.6%(583人)、「女性」51.4%(617人)。

#### ②年齢

「60～74歳」29.5%が最多、「40歳代」21.7%、「30歳代」17.4%、「50歳代」16.9%。

\*性別・年代別の人数は、2015年国勢調査の同構成比にほぼ準じる割合となっている。

\*集計に際しては、回収されたサンプル数を母集団の構成にあわせて集計する「ウエイトバック」を行った。

#### ③その他

居住地〔近隣3府県の人口構成比と同じ〕は「大阪府」52.5%が最多、「兵庫県」32.4%、「京都府」15.2%。職業は「会社員」30.9%が最多、「パート・アルバイト」17.0%、「専業主婦(主夫)」15.9%。世帯構成は「親と子の2世代世帯(子どもは高校生以上のみ)」25.9%が最多、「夫婦のみ」25.6%、「ひとり暮らし」20.8%。

自宅から奈良市中心街までの所要時間<sup>(\*)</sup>は、「60分未満」14.3%、「60～90分未満」30.1%、「90～120分未満」25.3%で、回答者の7割が2時間未満の範囲に居住している。

\*最も利用の多い交通手段を利用した場合の自宅から奈良市中心街(近鉄奈良駅付近)までの所要時間。